

第26回 日本腹部放射線研究会

The Japanese Society of Abdominal Radiology (JSAR)

プログラム・抄録集

会 期：2012年6月22日(金)～23日(土)

会 場：ホテルエルセラーン大阪

〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島1丁目5番25号

TEL：06-6347-1484

HPアドレス：<http://www.htl-el-osaka.com/>

当番世話人：村上 卓道

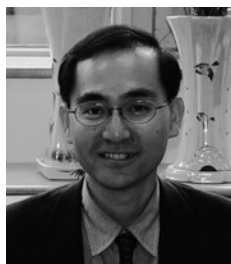
近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門

〒589-8511 大阪狭山市大野東377-2

E-mail：xshindan@med.kindai.ac.jp

研究会HP：<http://www.jsar.jp/26th>

(第26回ホームページ上の「宿泊・旅行案内」もご利用ください。)



第26回 日本腹部放射線研究会

当番世話人 村上 卓道

近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門

第26回日本腹部放射線研究会を、平成24年6月22日(金)・23日(土)の両日、大阪堂島のエルセランホテルで開催させていただくこととなりました。全国より150近い演題をお寄せくださった皆様方に感謝いたします。昨年のこの会は、大阪の官庁街である北浜の大阪市立中央公会堂で盛大に開催されましたが、今回は少し雰囲気異なる大阪の商業地区である堂島で開催させていただきます。ご参加いただけるすべての皆様にご満足いただけますように、近畿大学医学部放射線医学教室の医局員一同、力を合わせて精一杯、運営・サポートに当たりたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

今回も、この研究会の伝統を守り、腹部画像所見と病理学所見を対比し、画像が示すものを深く掘り下げる会にしたいと思っております。そこで、今回も専門の病理の先生方にご参加頂き、口演発表については病理的なコメントを頂きたいと思っております。病理医としては、大阪市立大学の若狭研一先生、京都大学の三上芳喜先生、近畿大学の佐藤隆夫先生、前西 修先生をお願いしております。基調講演では高知大学消化器内科の西原利治先生にNASHに関するお話を、大阪警察病院外科の西田俊朗先生にGISTに関するお話をお願いしております。最近、注目されている疾患について、その概念、診断、治療に渡って、内科、外科医の立場からお話しただけだと思います。放射線科医にとっては貴重な機会だと思いますので、ぜひご拝聴ください。

各講演・ポスターセッションの座長は、全国の第一線で活躍されている腹部放射線診断のエキスパートをお願いしております。活発な討論で大いに盛り上がりたいただきたいと考えております。教育(クイズ)展示は、公募、指名で10題準備させていただきます。成績上位者には賞品も用意しておりますので、皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

また今回は、ランチョンセミナー2つ、イブニングセミナー1つの他、初日のティータイム時にセミナーを企画し、GEヘルスケア・ジャパン株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、シーメンス・ジャパン株式会社、株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパンの4社をお願いしております。

会場となる堂島は前述しましたように、商都大阪の中心で、有名な北新地に隣接しております。昨年秋に大改修が完了しました梅田駅とも非常に近く、活気のある場所です。一生懸命勉強した後は、新しくなった梅田を散策して頂くのも良いかと思えます。今回も恒例のサッカー大会、テニス大会も鋭意準備しておりますので、参加される先生方には大いに楽しんでいただきたいと思います。また、22日金曜日の晩に開く情報交換会では、近畿大学が世界に誇る完全養殖の近大マグロの解体を行う予定です。是非、情報交換会にも参加して頂きたいと存じます。

最後に、本研究会を開催するにあたって多数の貴重な症例を応募して頂いた先生方、ご多忙のなか快く引き受けて下さった病理コメンテーター、座長、講演の先生方、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、ティータイムセミナー、機器展示に多大なご協力を頂いた各メーカーの方々、そして本研究会の運営を影で支えてくれた教室員に心から感謝いたします。



日本腹部放射線研究会ゴールドメダル受賞にあたって －日本腹部放射線研究会の歴史と展望－

一般社団法人日本腹部放射線研究会
名誉会員 打田 日出夫

日本に於ける放射線医学の発展に伴い、各領域と臓器についての専門的な知識と情報交換の必要性から、腹部領域に於いても「腹部放射線研究会」が最も多くの放射線科医が集まる専門部会として発展しており、22年間の歴史を刻みこの度26回研究会の開催を迎えたことは誠に喜ばしいことです。

ご協力頂いた歴代の幹事、世話人の先生、病理医の先生並びに会員の方々に心から感謝いたします。

この度、受賞の栄を得て身に余る光栄に存じます。つきましてはこの機会に腹部放射線研究会の歴史を少し振り返らせて頂きます。

腹部放射線研究会は第1回が1990年10月第26回日本医学放射線学会秋季臨床大会にジョイントして秋田に於いて開催された。発足当時は、日本医学放射線学会評議員会に於いて「泌尿生殖器系研究会」設立の提案があったが、一足先に発足した「肝・胆・膵系研究会」と合体して「腹部放射線研究会」として発足することに合意が得られた。近年、専門分化が進む医療体制の中で、CTとMRIを中心とした画像診断が、腹部全領域を包含した疾病・病態の情報を同時に提供している日常診療の現況に於いて、本研究会は、pitfallを回避して質の高い医療、特に画像診断情報を提供する義務がある放射線科医の立場から、その重要性和評価は益々高まると考えられ、腹部全領域を包含した本研究会の設立は正しい判断であったと実感している。

その後、年2回(1回は肝・胆・膵中心、1回は泌尿・生殖器中心)開催されてきたが、1995年からは腹部全領域を包括した年1回の開催となった。本研究会は「対象は病理が判明しているケースに限り、病理医に参加して頂き、病態や病理診断が明らかにされた興味深い・教訓的な症例を発表することが前提」となっており、各臓器と疾患に於けるパイオニアの病理医が全国からコメテータとして参加して適切な解説とコメントを述べて頂き、更に適宜に病理と画像に関する特別講演が企画されてきた。優れた腹部画像診断を志す放射線科医にとっては非常に恵まれた充実した研究会となっている。

2000年(第14回)までの10年間、私が代表幹事をさせて頂き、その後、幹事代表は板井悠二先生(筑波大)に2001年と2002年(15回、16回)を務めて頂いた後に、2003年から代表幹事が松井修先生(金沢大学)に受け継がれ、副代表幹事に森 宣先生が就任された。

研究会事務局は奈良県立医科大学 放射線医学講座が2006年(第20回:東京開催)までの16年間を担当した。2007年(第21回:宮崎開催)より大分大学 放射線医学講座に事務局が受け継がれ、後援を日本シェーリング(現バイエル薬品)株式会社にご尽力頂いた。

演題数と参加者が増加して益々充実した研究会として発展してきた。新体制での優れた執務に感謝している。この度、2011年2月に「一般社団法人日本腹部放射線研究会」と刷新され、2012年6月に開催される本研究会総会にて、代表理事が松井 修先生から森 宣先生に引き継がれる予定であり、更なる充実と発展を期待している。

本研究会は、毎回、非常に示唆に富む演題が多く、是非、記録に残したという声が反映されて、「腹部放射線診断アトラス」[I]が1993年4月に発刊され2006年に[XI]が刊行されたが、最近、「デジタ

ルアトラス」閲覧と「臨床放射線」掲載に移行された。

一方、画像診断の目的の一つは治療方針に役立てることであり、最近、画像診断と治療(特にIVRと放射線治療など)に関連する報告も推奨することにしたが、成果は未知数である。今後も、本研究会の特色である「画像と病理診断との対比検討に関する症例提示」は継承されると思うが、時代の変遷にマッチした企画を導入することも大切であり、最近、本研究会と連携してGUR、CT colonoscopyやCT urographyの会が発足している。

本研究会の幹事として活躍された3人の先生(故人)の「腹部画像診断アトラス発刊巻頭での印象に残る示唆に富む記事」の一部を、会員の心に永く刻んで頂きたい、以下に紹介します。

永井 純先生「学会がマンモス化したために、症例報告などの発表の機会がなくなってきた現実に鑑み、地方会レベルでしか見聞きできない貴重な症例を全国レベルの研究会で発表する場があれば、全国の放射線科医の画像診断の能力の向上に役立つのではなかろうかという趣旨のもとに計画された。また、同時に画像の裏付けとなる病理診断について病理学者の教育講演をプログラムに組み込むこととした。」「本研究会は発足当時の思惑どおり発展を重ね、現在活動している研究会の中でも会員数の多い人気のある研究会となってきた。この研究会発足の趣旨は明日の診療に直接役立つ貴重な臨床例を勉強する研究会であることが第一目的であり、地道な精進が臨床に強い画像診断医の育成に役立つものと信じている。」

板井悠二先生「症例は最大の教師であり、第1回から印象深いケースに色々と接してきた。……不勉強にして病名すら聞いたことがないような疾患もたびたび出てくる。……は部屋が狭いので多くはゴミとして消えていく運命にあるが、しかし、例外として本アトラスは時々眺めて楽しんでおり、この手の出版物としては異例の高い評価を受けており、小生自身も手の届きやすい場所に置き、何かの折にあんなケースがあった筈だと参照している。自分の病院の病理医とコメンテータの病理医の意見と違う症例も時々出たが、その趣旨を正しく持ち帰り、病院の病理医にさらに検討を加えて貰い、ブラッシュアップした投稿を期待したい。」

石川 徹先生「毎回欠かさず出席し、知識のup-dateに非常に役立っております。2日間座っているだけでその分野のあらゆる症例を網羅し学ぶことができるからです。地道な努力をすることが第一であり、若手への指針として長きに亘りカンファレンスにおいて続けてきている“case presentationの原則”の10項目の内、主な5項目は、①検査法が変わる前に必ずその時点での鑑別診断と自分の判断を述べる、②検査法が変わった場合、何故やったかを必ず言う習慣をつける、③全画像情報を供覧した後で総括し最終的に自分の意見を述べる、④人が納得できる最終診断の証拠を提示する、⑤症例のポイントと問題点を述べそれに対する文献考察を簡単に行う、である。」

なお最後に、松井先生と森先生が2004年「腹部放射線診断アトラス」[IX]に書かれた巻頭言の一文、「幸い本会には若い優秀な人材が数多い。世界に羽ばたく腹部放射線科医を数多く我が国から輩出できるように本会をより充実させていきたいと考えている。」並びに「志を継ぐ一さらなる腹部放射線研究会の発展を：国内の充実、志(板井先生)を継ぐ、国際関係—ESGAR-SGR-そして韓国・アジアとの提携・交流の情熱と形成、を課題として考えている。」を紹介します。

腹部全域に於ける質の高い画像診断に寄与する放射線科医の医療に於ける役割は大きく、本研究会で積み重ね習得された貴重な症例と先輩の教訓を糧として、特に将来を担う若い放射線科医の活躍を期待します。

平成24年5月10日

打田先生ゴールドメダル受賞について

一般社団法人日本腹部放射線研究会
代表理事 松井 修

日本腹部放射線研究会は1990年に第一回の研究会を秋田で開催してから今回まで四半世紀を経て大きく発展してきました。症例報告を中心に画像と病理の詳細な対比を行う本研究会のスタイルは多くの会員の支持を受け、若い画像診断医を教育し、我が国の腹部画像診断の発展を牽引してきたといっても過言ではありません。ここ数年間は将来を見据えた組織の改革にも取り組み、さらなる発展を目指しています。この時期に本研究会の発展に貢献された方に組織として謝意を表するために、ゴールドメダルを贈るべきという声が理事会で高まり、その最初の受賞者として打田日出夫先生が満場一致で推挙されました。打田先生は本研究会の創設に故板井悠二教授とともにご尽力され、第一回の会長を務められました。また常にオピニオンリーダーとして本研究会を今日まで牽引されてきました。ここに、日本腹部放射線研究会に対する打田先生の創設以来の長年の御貢献に対し、研究会を代表してお礼を申し上げるとともにゴールドメダルをお贈りいたします。

一般社団法人日本腹部放射線研究会 役員名簿

《代表理事》 松井 修 (金沢大) 《副代表理事》 森 宣 (大分大) 後閑 武彦 (昭和大)

《名誉会員》：7名

打田日出夫 (大雄会 IVR セ) 黒田 知純 (大阪がん予セ) 中尾 宣夫 (兵庫医大) 中村 仁信 (彩都友誼会)
平松 京一 (水町 MR) 平松 慶博 (サン虎の門) 宗近 宏次 (総合南東北病院)

《理事》：7名

荒木 力 (山梨大) 今井 裕 (東海大) 大友 邦 (東京大) 角谷 眞澄 (信州大)
杉村 和朗 (神戸大) 富樫かおり (京都大) 山下 康行 (熊本大)

《功労会員》：4名

木戸長一郎 (木戸病院) 隈崎 達夫 (日本医大) 竹川 鉦一 (総合南東北病院) 山田 龍作 (大阪市大)

《監事》：2名

鳴海 善文 (大阪医大) 南 学 (筑波大)

《評議員》：87名

【北海道・東北地区】：8名

加藤 健一 (岩手医大) 児玉 芳尚 (手稲溪仁会) 齋藤 博哉 (JA旭川厚生) 篠原 敦 (鳴海病院)
渋谷 剛一 (弘前大) 高橋 康二 (旭川医大) 津田 雅視 (東北大) 橋本 学 (秋田大)

【関東・甲信越地区】：25名

赤羽 正章 (東京大) 飯沼 元 (国立がんセ) 磯部 義憲 (東京医療セ) 市川 智章 (山梨大)
岩田 美郎 (東海大) 上野 恵子 (東京女子大) 楫 靖 (独協医大) 加村 毅 (信楽園病院)
北中 ゆき (町田市市民) 桑鶴 良平 (順天堂大) 五味 達哉 (東邦大大橋) 齋田 幸久 (聖路加国際)
陣崎 雅弘 (慶應大) 新本 弘 (防衛医大) 高橋元一郎 (日大総合科学研究所) 竹下 浩二 (帝京大)
田中優美子 (筑波大) 谷 一朗 (横浜栄共済) 谷本 伸弘 (慶應大) 成松 芳明 (市立川崎)
松尾 義朋 (イーサイトヘルスケア) 水沼 仁孝 (大田原日赤) 森山 紀之 (国立がんセ) 八代 直文 (東和病院)
吉田 哲雄 (神奈川県がんセ)

【中部・北陸地区】：10名

石口 恒男 (愛知医大) 伊藤 茂樹 (名古屋第一赤十字) 兼松 雅之 (岐阜大) 蒲田 敏文 (金沢大)
唐澤 英偉 (国際福祉大熱海) 小林 聡 (金沢大) 左合 直 (福井赤十字) 竹原 康雄 (浜松医大)
利波 久雄 (金沢医大) 宮山 士朗 (福井済生会)

【近畿地区】：17名

磯田 裕義 (京都大) 伊藤 亨 (神戸中央市民) 今岡いずみ (近畿大) 河上 聡 (京都ProMed)
吉川 公彦 (奈良県立医大) 金 東石 (大阪大) 佐藤 守男 (和歌山県医大) 中村 健治 (大東中央病院)
平井都始子 (奈良医大) 廣田 省三 (兵庫医大) 廣橋 伸治 (大阪暁明館) 古川 顕 (滋賀医大)
前田 哲雄 (神戸百年記念病院) 三浦 行矣 (先端医療セ) 村上 卓道 (近畿大) 山崎 道夫 (公立甲賀)
山本 和宏 (大阪医大)

【中国・四国地区】：12名

栗井 和夫 (広島大) 伊藤 勝陽 (尾道総合病院) 伊東 克能 (川崎医大) 伊藤 悟志 (高知大)
金澤 右 (岡山大) 児島 完治 (キナシ大林) 上者 郁夫 (岡山大) 鶴崎 正勝 (島根大)
中野 寛 (香川大) 松崎 健司 (徳島大) 松永 尚文 (山口大) 渡辺 祐司 (倉敷中央)

【九州・沖縄地区】：15名

青木 隆敏 (産業医大) 磯本 一郎 (長崎大) 入江 裕之 (佐賀大) 内田 政史 (久留米大)
落合 礼次 (福岡和白病院) 工藤 祥 (九州国際重粒子線セ) 田村 正三 (宮崎大) 浪本 智弘 (熊本大)
西村 浩 (済生会二日市) 福倉 良彦 (鹿児島大) 福田 俊夫 (長崎市民) 本田 浩 (九州大)
松本 俊郎 (大分大) 村中 光 (九州医療セ) 吉満 研吾 (福岡大)

(110名敬称略・順不同)

《事務局》

森 宣 / 山田 康成 / 小川 智子

大分大学医学部 臨床医学系放射線医学講座

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1

TEL : 097-586-5934 (放射線科医局) FAX : 097-586-0025 E-mail : jsar@oita-u.ac.jp

一般社団法人設立と正会員としての年会費制について

本会は1990年から「任意団体」として活動して参りましたが、会員数も平成22年には900名を越え、国内外の腹部放射線医学・画像診断学領域において重要な役割を果たしております。

放射線医学の更なる発展の基盤となるよう、平成23年2月7日(月)に名実ともに「一般社団法人日本腹部放射線研究会」として設立登記いたしました。

尚、「一般社団法人」は主に「会費収入」で成り立つ事が条件と定める公正取引委員会での取決めに基づき、平成23年度より正会員としての「年会費制(8,000円)」を導入し、お支払い手続きのご負担軽減の為、全てクレジットカード決済としております。

【平成23年度に正会員の登録をされた場合】

正会員としての継続の意思を事前確認させて頂き、年会費(8,000円)は5月中に自動決済させて頂きます。

【新規に正会員としてご登録頂く場合】

本研究会の法人化前(H23年2月7日以前)に会員登録済みの場合は、研究会ホームページの会員登録頁より「確認・修正」をご選択頂き、登録内容を確認・修正してください。この際には年会費のクレジットカード決済のご入力を御願いたします。

・年会費納入期間：日本腹部放射線研究会法人年度内(5月1日～翌年4月末日)

但し、研究会開催前の5月1日～31日の間に、当年度の「年会費」を納入して頂いた場合は、同年6月に開催されます学術集会『参加費(8,000円)』は年会費納入の特典として『無料』となります。上記期間内に「年会費」を納入されない場合は、学術集会『参加費(8,000円)』は会場での当日支払いを御願いさせていただきます。

[年会費納入の特典]

- 1) 研究会参加費(8,000円)の免除(研究会開催前の5月1日～31日の間に年会費を納入して頂いた場合に限られます)
- 2) 研究会および研究会関連学会の情報提供
- 3) HP上の「デジタルアトラス」閲覧用の専用アカウント配布
- 4) 学術研究助成基金の応募資格を有する

「正会員」となることにより、多くの先生方が日常診療や研究活動及び教育の場において幅広くその特典を活用されることを祈願いたします。

一般社団法人日本腹部放射線研究会
代表理事 松井 修
事務局長 森 宣(副代表理事)

以上

ご案内

1. 総合受付

- 1) 受付は、3F ホワイエにて、6月22日(金)8:00～、6月23日(土)8:30～開始いたします。
- 2) 参加費は8,000円です。参加費と引き換えに名札(兼出席証明書)をお受取ください。
- なお、会費制導入に伴い2012年(平成24年)5月1日～5月31日までに会費をお支払い頂いた方は研究会参加費が無料となりますので、事前登録受付にお越しください。

2. 一般演題

【一般口演】

- 1) 座 長
- ・ ご担当頂くセッションの終了時間を厳守してください。一般口演の発表時間はすべて4分、討論時は各口演につき3分(ディスカッション2分、病理などのコメント1分)とします。

- 2) 発表者

◆「プレデジタルアトラス」、「デジタルアトラス」、学術誌「臨床放射線」について

「腹部画像診断アトラス」は第14刊まで発刊いたしましたが、「同一症例の他の学術誌への投稿により二重投稿になる可能性があること」や「業績として認められないこと」などの問題点があることから、第23回研究会より学術誌「臨床放射線」へ掲載する方針となりました。

◆「プレデジタルアトラス」について

発表者全員に研究会ホームページ上で発表内容を「プレデジタルアトラス」形式で事前入力して頂き、非公開で「打田賞」事前審査および病理コメンテーターの先生方への資料として活用させていただきます。

◆「デジタルアトラス」、学術誌「臨床放射線」掲載について

研究会終了後に、掲載希望確認の上、「プレデジタルアトラス」を「デジタルアトラス」として研究会ホームページに掲載いたします。また、日本腹部放射線研究会が、学術誌「臨床放射線」への投稿（「プレデジタルアトラス」＋「英文サマリー」＋「査読」）をサポートいたします。（学術誌「臨床放射線」と「デジタルアトラス」のホームページ併載は二重投稿となりません。）

タイムスケジュール

H23 11	12	H24 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
演題登録			「ブレデジタルアトラス」入稿			◆ 第26回 日本腹部放射線研究会							
掲載諾否最終確認													
『ブレデジタルアトラス』内容修正 (学術誌「臨床放射線」投稿は英文サマリー追加)													
「デジタルアトラス」簡易校正(事務局)										HP掲載			
①～③「臨床放射線」査読・著者校正										金原出版社へデータ移管			

※「臨床放射線」掲載予定は金原出版社の最終協議により決定いたします。

執筆要綱（概略）

- ①「プレデジタルアトラス(=デジタルアトラス)」

Total文字数	
3,200文字以上 ～8,800文字未満	演題名、演者名、所属…8,800字に含む 図、表…1点を400字に換算 (例)図15枚を掲載の場合(400×15=6,000字に換算) →入力Total文字数は実質2,800字以内となる

- ②「臨床放射線」

「プレデジタルアトラス」掲載内容を論文の体裁に整えて頂き、英文サマリー(演題名、演者名、所属含100ワード以内)を追加後、査読を通して同学術誌へ投稿して頂くことができます。

◆ 発表時間

- ・ 一般口演の発表時間は発表4分・討論時間3分です。時間厳守をお願いいたします。

◆ 発表形式

- ・ プロジェクターによる発表ですので、ご自身のPCもしくはデータをご持参ください。
- ・ 会場に設置されるプロジェクターは1画面となり、解像度は1024×768ピクセルです。
- ・ 当日は演者ご自身で舞台上に設置されてあるキーボード及びマウスにて操作していただきます。

◆ PC受付

- ・ 発表データの受付は、3F エレベーター前にございます。発表の30分前迄に試写をお済ませください（混雑が予想されますので、十分時間の余裕を持って、随時PC受付を行っていただきます様ご協力をお願いいたします）。
- ・ PC受付での発表データの修正作業は、準備進行の妨げになりますのでご遠慮ください。
- ・ PC本体をお持ちの方はデータ確認終了後、発表会場のPCオペレーター席(会場ステージ向かって左側)までご自身でお持ちください。

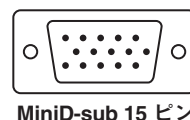
◆ 発表に関する注意事項

<データをお持ち込みの方>

- ・ 発表データはWindowsのPower Pointのみとし、CD-R、DVD-RまたはUSBフラッシュメモリのメディアにてご持参ください(CD-RW、DVD-RWは不可)。
- ・ ご発表用アプリケーションは以下のバージョンをご用意いたします。
Windows Power Point: 2003、2007、2010
※Macintoshで発表データを作成される方は、ご自身のPCをお持ち込みください。
- ・ フォントはOS標準で装備されているものをご使用ください。画面レイアウトの崩れを防ぐには、下記フォントのご使用をお勧めいたします。
推奨フォント/ 日本語の場合 MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
推奨フォント/ 英語の場合 Century、Century Gothic
上記以外のフォントを使用した場合、文字や段落のずれ、文字化け、文字が表示されない等のトラブルが起こる可能性があります。
- ・ 動画をご使用の場合は、PowerPointとのリンク状態を保つ為、動画ファイルも同じフォルダに保存してください。ファイル形式は、Windows Media Playerで動作するファイル形式でご用意ください。(推奨: WMV)
※AVIはCODECによって再生できない場合があります。
動画をご使用の場合は、ご自身のPCをお持ちいただくことをお勧めいたします。
- ・ 音声は使用できません。
- ・ 発表者ツールは使用できません。
- ・ お預かりした発表データは、学会終了後にコンピューターより消去いたします。

<PC本体を持参される方>

- ・ PC本体をお持ちの方は、PC受付でのデータ確認終了後、発表会場のPCオペレーター席(会場ステージ向かって左側)までご自身でお持ちください。
- ・ PC持込の場合は、外部ディスプレイ出力が可能であることを必ずご確認ください。
- ・ バッテリー切れを防ぐため電源アダプターをご持参ください。再起動することがありますのでパスワード入力不要に設定をお願いいたします。
- ・ 出力端子がMiniD-sub 15ピンでないものは、接続アダプターをご持参ください。
- ・ 画面サイズ(解像度)はXGA(1024×768)となります。
- ・ この環境で画面の全てが不具合無く表示される事を、予めご確認ください。
- ・ 音声は使用できません。
- ・ 発表者ツールは使用できません。
- ・ スクリーンセーバー、省電力設定については、あらかじめ解除をお願いいたします。



◆ 病理標本

- ・ 口演は病理学の先生にコメンテーターをお願いしております。病理コメンテーターの先生方よりご要望のあった演題については事前にプレパラートを送付またはご持参頂く事になります。郵送をお願いする場合は改めてご連絡させていただきます。なお、お預かりしましたプレパラートは、口演が終わりましたら病理受付にて返却いたしますのでお忘れのないようご注意ください。

【ポスター展示】

ポスター展示については、一般展示、問題提示(クイズ)形式の2種類があり、パネルサイズも異なります。
展示の先生方は各自ご発表の形式とパネルサイズを確認の上、作成をお願いいたします。

1) 一般展示発表者

- ・ポスターを掲示する**パネルの大きさはA・Bの2パターンあり**、サイズは下記の通りです。
(演題番号によってパネルサイズ・仕様が異なりますので、各自確認の上、12～13ページのポスター作成見本を参考に作成してください)

ポスターA (演題番号:P38～71) 展示場所 : 4F ホワイエ

パネル上 : 横116cm×縦90cm

パネル下 : 横116cm×縦90cm

ポスターB (演題番号:P1～37) 展示場所 : 5F ホワイエ

パネル(1枚仕様) : 横90cm×縦210cm

- ・ポスター展示会場は4F、5F ホワイエです。第1日目午前11:00までにポスター会場にて展示受付をお済ませください。ポスターを掲示するパネルに演題番号がついていますので、会場に用意されたマジックテープもしくは押しピンをお使いになって掲示してください。
- ・第1日目の17:50～18:30にポスターディスカッションを行います。発表者はご自身のポスターの前で待機してください。各セッションの座長の進行に従って、発表2分、質疑2分をお願いいたします。
- ・全プログラム終了後は、直ちにポスターの撤去をお願いいたします。終了後30分経過しても残っているポスターは処分いたしますので、ご了承ください。

2) クイズ展示発表者

- ・ポスターを掲示するパネルの大きさは下記の通りです。
(14ページのポスター作成見本を参考に作成してください)

パネル上(出題) : 横115cm×縦90cm

パネル下(解答解説) : 横115cm×縦90cm

展示場所 : 3F 宴会場

- ・出題部分には患者の年齢、性、簡単な主訴や経過、症例の画像のみを提示するように作成してください。図の説明は検査法のみとし、所見の解説はつけないようお願いいたします。矢印や矢頭はつけて頂いても構いません。
- ・解答解説部分には演題名に続いて、画像の説明、最終診断、症例の解説をお願いいたします。出題部分と重複してお示し頂いても構いません。
- ・上記の原稿を指定日までに事務局宛に送付してください。解答解説部分を隠して掲示いたします。なお、第1日目の18:30より解答解説部分を公開いたします。
- ・展示に関して座長の設定や口演発表は行いませんが、第1日目の17:50から18:30まではポスターディスカッションのため、ご自分のポスターの前で待機しておいてください。
全プログラム終了後は、直ちにポスターの撤去をお願いいたします。終了後30分経過しても残っているポスターは処分いたしますので、ご了承ください。

3. 社員総会(世話人会)

日 時 : 6月22日(金) 12:40～13:10

場 所 : 15F スカイアトリウム

4. 展示クイズ企画

日 時 : 6月22日(金) 11:00～18:30

場 所 : 3F 宴会場(中継会場内)

※6月23日(土) 11:30～11:40 クイズ症例優秀者表彰

- ・ポスター展示の閲覧時間は第1日目11:00～19:00、2日目8:00～17:00です。第1日目の18:30までクイズ展示ポスターの解答・解説は隠されています。
- ・会場には解答用紙を用意しておきますので、解答・解説が発表される前に皆様奮って解答をご記入ください。なお、解答・解説は第1日目の18:30に公開されますので、それまでに会場に用意された箱に記名のうえで投函ください。
- ・上位の方には当番世話人が心ばかりの賞品をご用意いたします。

5. 打田賞受賞講演・ゴールドメダル授与式

日 時：6月23日(土) 13:20～14:10

6. 基調講演

【基調講演1】：バイエル薬品株式会社 共催セミナー

日 時：6月22日(金) 11:15～11:45

座 長：吉満 研吾先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)

演 者：西原 利治先生(高知大学医学部 消化器内科学講座)

『脂肪性肝疾患の臨床と画像診断』

【基調講演2】：バイエル薬品株式会社 共催セミナー

日 時：6月23日(土) 10:40～11:10

座 長：角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学講座)

演 者：西田 俊朗先生(大阪府警察病院 外科)

『固形腫瘍に対する分子標的治療のモデルとしての消化管間質腫瘍(GIST)

ー分子メカニズムと実地診療での経験からー』

7. 共催セミナー

【ランチョンセミナー1】：GEヘルスケア・ジャパン株式会社

日 時：6月22日(金) 11:50～12:40

座 長：鳴海 善文 先生(大阪医科大学 放射線医学教室)

演 者：谷本 伸弘 先生(慶應義塾大学医学部 放射線診断科)

『Discovery MR 750 3.0Tの現状』

【ランチョンセミナー2】：東芝メディカルシステムズ株式会社

日 時：6月23日(土) 11:45～12:35

座 長：桑鶴 良平 先生(順天堂大学医学部放射線医学講座)

『3T MRIと320列面検出器CTで診るこれからの腹部画像診断』

演 者：生口 俊浩 先生(福山市民病院 放射線診断・IVR科)

小林 達伺 先生(国立がん研究センター東病院 放射線診断科)

【ティータイムセミナー】：株式会社フィリップス エレクトロニクス ジャパン

日 時：6月22日(金) 14:45～15:30

座 長：坂井 修二 先生(東京女子医科大学 画像診断学・核医学分野)

演 者：新本 弘 先生(防衛医科大学校病院 放射線科)

『Ingenia 1.5T 腹部領域の有用性』

那須 克宏 先生(筑波大学附属病院 放射線科)

『3.0T 腹部領域の最前線』

【イブニングセミナー】：シーメンス・ジャパン株式会社

日 時：6月22日(金) 17:05～17:45

座 長：今岡いずみ 先生(近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門)

演 者：藤本 晃司 先生(京都大学医学部附属病院 放射線診断科)

『子宮疾患のMRIにおける新たな潮流』

8. 企業展示

展示協賛プレゼンテーション

日 時：6月23日(土) 11:10～11:30

座 長：村上 卓道 先生(近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門)

発表1：株式会社AZE

発表2：エーザイ株式会社

発表3：ピー・エス・ピー株式会社

発表4：富士フィルムメディカル株式会社

企業展示

日 時：6月22日(金)～23日(土)

場 所：3F 宴会場

株式会社AZE、エーザイ株式会社、ピー・エス・ピー株式会社、富士フィルムメディカル株式会社

9. 情報交換会

日 時：6月22日(金) 18:40～20:00

場 所：3F 宴会場

※近大マグロの解体を行いますので、是非ご参加ください。

10. ワークショップのご案内

日本腹部放射線研究会 第3回 JSAR CT コロノグラフィー・ワークショップ(JSAR CTC-WS)

日 時：6月24日(日) 9:00～15:30

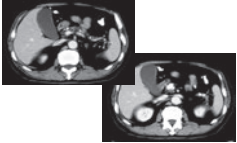
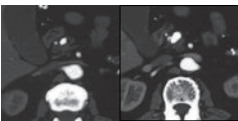
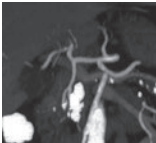
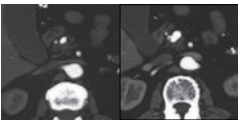
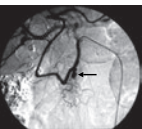
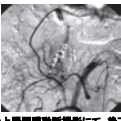
講義と画像ワークステーションによるハンズオン形式：定員40人

場 所：ホテルエルセラーン大阪 3F 宴会場

一般展示 ポスターAの見本 (A4用紙に印刷してポスターを組んだ場合)

演題番号:P38~71の方

A4用紙を使った場合、上の欄には最大3列×4行、下の欄には最大3列×3行、計21枚のA4用紙が横置きで貼り付けられます。

演題番号は事務局で準備します。			使用しません			135mm			
塞栓術で治療した Hemosuccus Pancreaticus の1症例 魚山 聖史, 栗生 茂, 南 学, 赤羽 正孝, 吉岡 直紀, 古賀 久雄, 渡辺 慎, 大友 邦 東京大学医学部附属病院放射線科			症例 ・60歳男性 ・主訴: 下血, 心窩部痛, 嘔吐, 冷汗 ・日本籍2名62年 ・5月検診にて貧血指摘(Hb 6g)近頃受診。7月頃下血が一度あり。8月に気分不快、悪心、嘔吐、下血があり、他院緊急入院。Hb5g。吐血。OT, US行っても出血型不詳。11月に再度、ふらつきがあったため、当院受診。Hb 6.8と低下のため緊急入院。			入院後経過 ・Hb 6.8 g/dL, CRP 0.3 mg/dL ・正球性貧血 (RBC 227万 1/μL, MCV 88.1) ・amylase 158 IU/L, p-amylase 74 IU/L ・緊急上下部内視鏡 - 胃から出血源なく、十二指腸のsecond portion にのみ血液付着 ・OT (一画面): 慢性膵炎指摘、膵臓部に石灰化 ・小腸造影: 異常なし ・HSA出血シンプ (異常なし) ・輸血(MAP 21x3回)			60mm
図1. 腹部造影CT (1画面、遅延相) 			図2. 上腹部dynamic CT (2画面) 			図3. MPVR-MIP 			900mm
図4. 腹腔動脈造影 			図5. 上腹部dynamic CT (2画面)  膵石石灰化に続いて胃十二指腸動脈(矢印)につながるように動脈瘤(矢印)を認める。			図6. 胃十二指腸動脈造影  後上胃十二指腸動脈結紮部近くに慢性動脈瘤を認める。この瘤は図3, 4でも見えている。			60mm
塞栓術後の上腹部動脈造影にて、後上胃十二指腸動脈結紮部の近くにも小さな慢性動脈瘤の増大を認めたが、膵炎の合併を認め、塞栓術は追加しなかった。 			5ヶ月後のERCP  ・主膵管内に結石 ・膵管拡張			Hemosuccus Pancreaticus ・Sandblom P (1970)が最初に報告 ・膵管からの大量の出血を指す ・ほとんどのものが慢性膵炎に伴うもの ・慢性膵炎の膵管内破綻により膵管から出血 ・その他に外傷性、血管性腫瘍の膵転移、迷走膵(異所性膵)などによるものも報告されている ・報告 65例 (塞栓術による治療例 9例)			900mm
Hemosuccus Pancreaticus : 診断 ・出血は顕微鏡的なため、膵臓から膵管への出血が推定されるのはまれ。(Suter, 1996) ・内視鏡で主膵管からの出血をもって診断(Morse, 1983; Jacobs, 1982). ・内視鏡で不明なものは血管造影が有用(Shahani, 1994). ・OTで慢性膵炎、動脈瘤。 ・3D-CTangiography も有用 (Malczfeldt, 1997).			Hemosuccus Pancreaticus : 治療 ・手術 ・膵部分切除、膵摘、膵臓の結紮 ・塞栓術 ・動脈瘤の近位・遠位の塞栓			Hemosuccus Pancreaticus ・慢性膵炎に慢性動脈瘤が合併する頻度は約10% (White, 1978; Hoffer, 1987). ・慢性膵炎症例における消化管出血を見た場合には、この疾患を念頭に置いて詳細に検討する必要がある。			60mm
900mm			900mm			80mm			
この部分は見にくいので、掲載しないようにしてください。						80mm			
1160mm									

演題番号:P1~37の方

演題番号は事務局で準備します。

東京大学医学部附属病院放射線科

68歳男性
主訴：下血、心窩部痛、嘔吐、冷汗
日本酒2合x52年
5月検診にて貧血指摘(Hb 6.6)近医受診、7月頃下血が一度あり、9月に気分不快、悪心、嘔吐、下血があり、他院緊急入院。Hb 5.6。輸血、OT、US行っても出血源不明。11月に血便、ふらつきがあったため、当院受診。Hb 6.6と低下のため緊急入院。

Hb 6.8 g/dl, CRP <0.3 mg/dl
 正球性貧血 (RBC 227万/μl, MCV 88.1)
 aspartate 158 IU/l, p-aspartate 74 IU/l
 腎臓上下部内視鏡 明らかな出血源も、十二指腸
 Duodenum portion におもひ血痕付着
 CT (一層目)：慢性脾臓増大、脾臓部に石灰化
 小腸造影 異常なし
 HSA出血シンチ 異常なし
 輸血 (MAP 21.3 mmHg)



塞栓術後の上腸間膜動脈造影にて、後下群十二指腸動脈起始部の近くにも小さな仮性動脈瘤の残存を認めたが、脾動脈の合併を恐れ、塞栓術は追加しなかった。

主尿管内に結石
尿管拡張

出血は間欠的なため、聴取から肺管への出血が推定されるのはまれ。(Suter, 1995)

内視鏡で主肺管からの出血をもって診断(Morris, 1983; Jacobs, 1992).

内視鏡で不明なものも血管造影が有用(Shahari, 1994).

CTで慢性肺炎、肺膿瘍。

3D-CTangiographyも有用(Meisfeldt, 1997).

手術 脾部分切除，脾摘，動脈の結紮
 塞栓術 動脈瘤の近位・遠位の塞栓

- 慢性肺炎に仮性腸腺癌が合併する頻度は約10% (Whita, 1976; Hofer, 1987)。
- 慢性肺炎症例における消化管出血を見た場合には、この疾患を念頭に置いて詳細に撮影する必要がある。

この部分は見にくいので、掲載しないようにしてください。

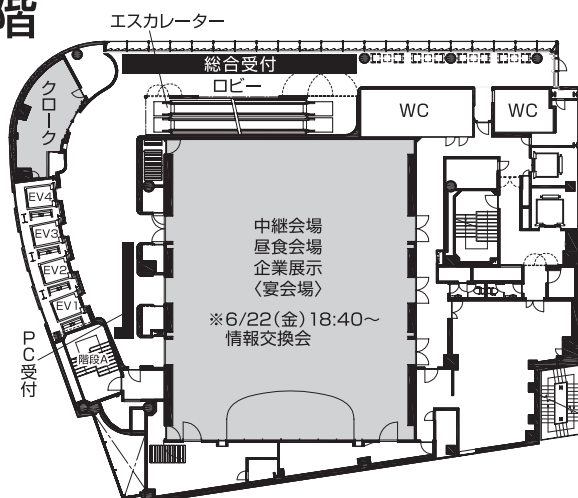
クイズポスターの見本 (A4用紙に印刷してポスターを組んだ場合)

A4用紙を使った場合、上の問題欄には3列×4行、下の解答・解説欄には最大3列×3行、計21枚のA4用紙が横置きで貼付けられます。

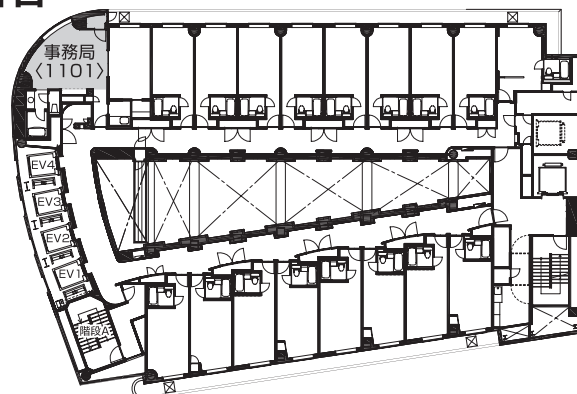
演題番号は事務局で準備します。		使用しません		135mm
図に番号をふっておくとき便利です (論文の様に)				60mm
症例 ・ 68歳男性 ・ 主訴: 下血、心窩部痛、嘔吐、冷汗 ・ 日本産2会22年 ・ 6月検診にて貧血指数0.6 (8月) 近頃受診、7月頃下血が一度あり、8月に気分不快、悪心、嘔吐、下血があり、他院緊急入院。Hb 6.5g、輸血、OT、US行っても出血源不明。11月に血便、ふらつきがあったため、当院受診。Hb 6.0と低下のため緊急入院。		図1 腹部造影CT (1回目、遅延相) 	図2 上部腹部dynamic CT (2回目) 脾石状に影して胃十二指腸間隙 (矢印) につながるように線状影 (矢印) を認める。	900mm 60mm 900mm 60mm 900mm 80mm
図3 MPVR-MIP 	図4 腹腔動脈造影 	画像所見の解説にはここでは伏せて、どういう検査法のみめしてくださ (Key pointがわかりにくい場合は矢印などをつけ、その解説は解答・解説欄で述べてください)		
この線を境に、問題欄は上部パネルに、解答・解説欄は下部パネルに掲示ください。		Key imageは繰り返して提示していただいてもかまいません。		
塞栓術で治療した Hemosuccus Pancreaticus の1症例 魚山 聖史 飯生 茂 南 孝 赤羽 正孝 吉岡 直紀 古賀 久雄 遠近 俊 大友 邦 東京大学医学部附属病院放射線科		入院後経過 ・ Hb 6.6 g/dL, CRP <0.3 mg/dL ・ 正球性貧血 (RBC 227万 / μL, MCV 88.1) amylase 168 IU/L, p-amylinase 74 IU/L ・ 胃腸上下部内視鏡 - 明らかな出血源なく、十二指腸のsecond portion へのみ血漿付着 ・ CT (一回目): 慢性脾炎増強、脾臓部に石灰化 ・ 小腸造影: 異常なし ・ HSA出血シンチ: 異常なし ・ 輸血 (MAP 2Ux3回)	図2 上部腹部dynamic CT (2回目) 	
図5 胃十二指腸動脈造影 後上腹十二指腸動脈起始部近くに慢性動脈瘤を認める。この瘤は図3、4でも見えている。	最終診断 Hemosuccus Pancreaticus hemor[=Q.1a/m] blood suocus[=L.1] juice	塞栓術後の上部腹部動脈造影にて、後上腹十二指腸動脈起始部の近くにも小さな慢性動脈瘤の残存を認めたが、脾炎の合併を認め、塞栓術は追加しなかった。		
Hemosuccus Pancreaticus ・ Sandom P (1970) が最初に報告 ・ 脾臓からの大量の出血を指す ・ 脾臓からの慢性動脈性出血に伴うもの ・ 慢性動脈性出血の脾臓内破裂により脾臓からの出血 ・ その他に外傷性、富血性腫瘍の脾臓部、迷走脾 (異所性脾) などによるものも報告されている ・ 報告 65例 (塞栓術による治療例 9例)	Hemosuccus Pancreaticus: 診断 出血は間欠的なため、動脈から脾臓への出血が提出されるのはまれ。(Suter, 1995) 内視鏡で主脾臓からの出血をもって診断 (Moran, 1982; Jacobs, 1992) 内視鏡で不明なものは血管造影が有用 (Shahar, 1994) CTで慢性脾炎、動脈瘤 3D-CT angiography も有用 (Malchevsky, 1997)	必要な場合はreferenceを加えて下さい		
この部分は見にくいので、掲載しないようにしてください。				

会場フロア図

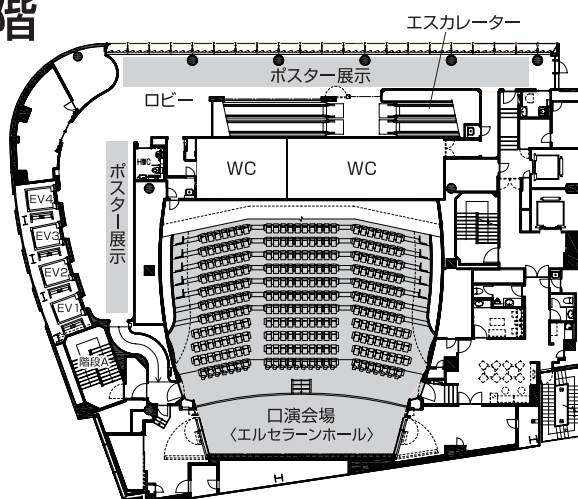
3階



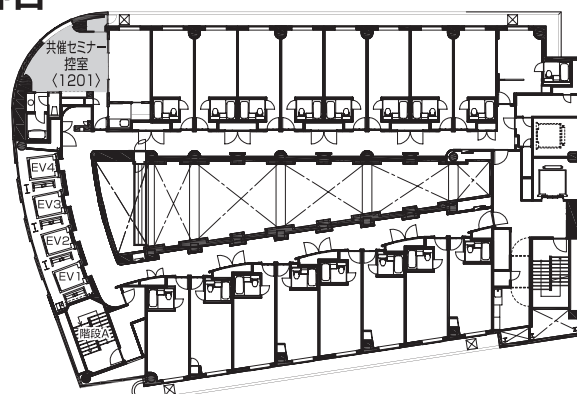
11階



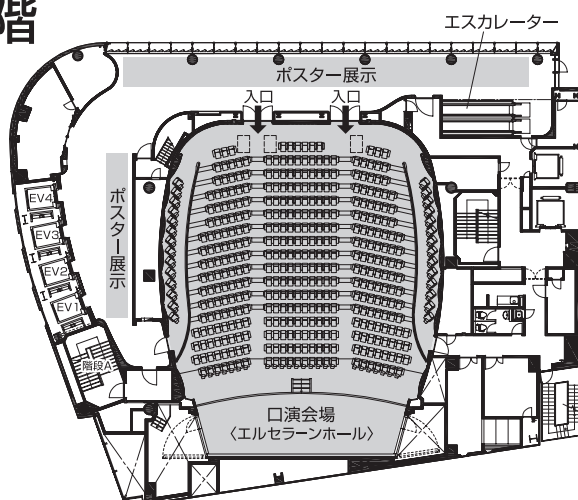
4階



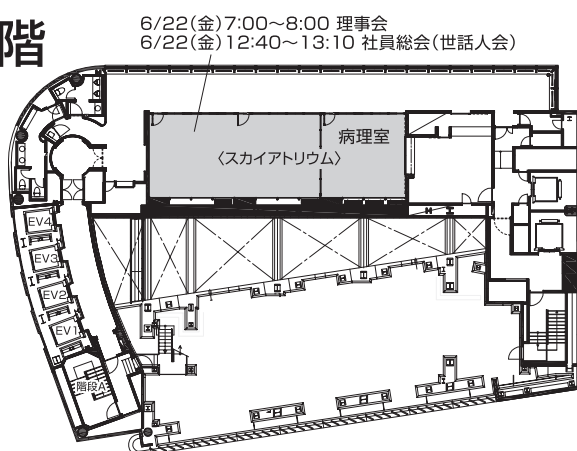
12階



5階



15階



プログラム・日程表

第26回 日本腹部放射線研究会 日程表

6月22日(金)			6月23日(土)	
9:00	9:00～9:05 開会の挨拶		9:00	9:00～9:42 胆膵-1 (O-39～O-44)
	9:05～9:47 消化管・腹腔(O-1～O-6)			
10:00	9:47～10:22 泌尿器-1 (O-7～O-11)		10:00	9:42～10:31 胆膵-2(O-45～O-51)
	コーヒープレイク (約10分)			コーヒープレイク (約10分)
11:00	10:35～11:10 泌尿器-2(O-12～O-16)		11:00	10:40～11:10 基調講演2
				11:10～11:30 展示協賛プレゼンテーション 11:30～11:40 クイズ症例優秀者表彰
12:00	11:15～11:45 基調講演1		12:00	11:45～12:35 ランチョンセミナー2
	11:50～12:40 ランチョンセミナー 1			
13:00	12:40～13:10 昼食	12:40～13:10 社員総会(世話人会)	13:00	12:40～13:20 昼食
	13:10～13:45 泌尿器-3(O-17～O-21)			13:20～13:50 打田賞受賞講演
14:00	13:45～14:00 事務局連絡		14:00	13:50～14:10 ゴールドメダル授与式
	14:00～14:42 子宮(O-22～O-27)			14:10～14:52 肝-1 (O-52～O-57)
15:00	14:45～15:30 ティータイムセミナー		15:00	14:52～15:34 肝-2(O-58～O-63)
	15:30～15:45 ティータイム			コーヒープレイク (約10分)
16:00	15:45～16:20 子宮・卵巣(O-28～O-32)		16:00	15:45～16:34 肝-3(O-64～O-70)
	16:20～17:02 卵巣(O-33～O-38)			16:34～17:16 肝-4(O-71～O-76)
17:00	17:05～17:45 イブニングセミナー		17:00	17:16～ 閉会の挨拶
18:00	17:50～18:30 ポスターディスカッション		6月24日(日) 日本腹部放射線研究会 第3回 JSAR CT コロノグラフィー・ ワークショップ (会場:ホテルエルセラーン大阪)	
	18:30～ クイズ症例回答公開			
	18:40～ 情報交換会			

9:00~9:05 開会の挨拶

9:05~9:47 セッション1 消化管・腹腔(6題)

座 長 松木 充 (近畿大学 放射線診断学部門)
コメンテーター 佐藤 隆夫 (近畿大学医学部附属病院 病院病理部)

0-1 高度のるいそうから寛解したWhipple病の1例

八木 進也¹、藤澤 英文¹、渡邊 孝太¹、船木 翔¹、櫛橋 民生¹、垣本 哲宏²、
渡邊 大輔²、工藤 進英²、御子神哲也³、国村 利明³
昭和大学横浜市北部病院 放射線科¹、昭和大学横浜市北部病院 消化器センター²、
昭和大学横浜市北部病院 病理科³

0-2 局在診断に術前ASVSが有用であった十二指腸球部ガストリノーマの1例

鶴崎 正勝¹、丸山 光也¹、森 博史¹、稗田 洋子¹、勝部 敬¹、安藤 慎司¹、
吉廻 毅¹、北垣 一¹、木谷 昭彦²、比良 英司²、川畑 康成³、田島 義証³、
斎藤 宰³、木下 芳一³、丸山理留敬⁴
島根大学医学部附属病院 放射線科¹、島根大学医学部附属病院 消化器外科²、
島根大学医学部附属病院 消化器内科³、島根大学医学部附属病院 病理科⁴

0-3 大網inflammatory myofibroblastic tumorの1例

澤田 明宏¹、朝倉 弘郁¹、森口 理久¹、新槇 剛¹、遠藤 正浩¹、武隈 宗孝²、
渡邊 麗子³
静岡県立静岡がんセンター 画像診断科¹、静岡県立静岡がんセンター 婦人科²、
静岡県立静岡がんセンター 病理診断科³

0-4 Desmoplastic small round cell tumorの1例

加藤 勝也¹、新家 崇義¹、藤原 寛康¹、富田 晃司¹、佐野 由佳¹、宇賀 麻由¹、
郷原 英夫¹、佐藤 修平¹、金澤 右¹、柳井 広之²
岡山大学医学部 放射線科¹、岡山大学病院 病理部²

0-5 胸膜外Solitary fibrous tumorの2例

大河内知久¹、小野澤裕昌¹、角田 澄子¹、濱本 耕一¹、角田 秀和¹、丹野 啓介¹、
大森 義男¹、松浦 克彦¹、田中 修¹、土橋 洋²、福井 太郎³、岡田晋一郎³、
高田 理³、鈴木康治郎³、清崎 浩一³、辻仲 眞康³、小西 文雄³
自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科¹、
自治医科大学附属さいたま医療センター 病理部²、自治医科大学附属さいたま医療センター 外科³

0-6 脾炎症性偽腫瘍様濾胞樹状細胞性腫瘍の1例

吉村 宜高¹、齋藤 和博¹、赤田 壮市¹、伊藤 良和²、大屋敷一馬²、鈴木 芳明³、
青木 達哉³、長尾 俊孝⁴、徳植 公一¹
東京医科大学 放射線医学教室¹、東京医科大学 内科第一講座²、
東京医科大学 消化器外科・小児外科³、東京医科大学 病理診断部⁴

0-7 前立腺STUMPの1例

前倉 拓也¹、小山 貴¹、岡田 務¹、塩崎 俊城¹、藤堂 義郎¹、岩村 浩志²、
西村 一男²、新宅 雅幸³

大阪赤十字病院 放射線診断科¹、大阪赤十字病院 泌尿器科²、大阪赤十字病院 病理部³

0-8 術前のFDG-PETで低集積を示し診断に苦慮した副腎皮質癌の1例

武智 恵¹、津田 孝治¹、佐々木礼美¹、田中 宏明¹、望月 輝一¹、柳原 豊²、
横山 雅好²、竹治みゆき³、杉田 敦郎³

愛媛大学医学部 放射線科¹、愛媛大学医学部 泌尿器科²、愛媛大学医学部 病理³

0-9 膀胱内反性乳頭腫の1例

谷坂 愛¹、藤澤 英文¹、砂押 紀子¹、船木 翔¹、松成 一矢¹、渡邊 孝太¹、
櫛橋 民生¹、松本 祐樹²、島田 誠²、尾松 睦子³、国松 利明³

昭和大学横浜市北部病院 放射線科¹、昭和大学横浜市北部病院 泌尿器科²、
昭和大学横浜市北部病院 病理科³

0-10 高齢で診断されたアンドロゲン不応症に伴う巨大な精巣過誤腫の1例

松本 俊亮¹、倉田 忠宜¹、小澤さやか¹、鈴木 孝司¹、井筒 睦¹、三上和歌子¹、
里 梯子²、甘 彰華³

けいゆう病院 放射線科¹、けいゆう病院 臨床検査科(病理)²、けいゆう病院 婦人科³

0-11 Segmental MCDKの1成人例

上嶋 佑樹¹、竹内 充¹、伊藤 雅人¹、芝本 雄太¹、原 眞咲²、新美 浩樹³、
石井美砂子³

名古屋市立大学医学部 放射線医学教室¹、名古屋市立大学 中央放射線部²、成田記念病院 放射線科³

10:35~11:10 セッション3 泌尿器-2(5題)

座 長 丸上 永晃 (奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部)
コメンテーター 佐藤 隆夫 (近畿大学医学部附属病院 病院病理部)

O-12 MRIにおいて共通の特徴的所見を呈した4例の後腹膜血管奇形/血管腫

秋田 大字¹、陣崎 雅弘¹、山田 祥岳¹、伊東 良晃¹、宮嶋 哲²、三上 修治³、
谷本 伸弘¹、栗林 幸夫¹

慶應義塾大学医学部 放射線診断科¹、慶應義塾大学医学部 泌尿器科²、
慶應義塾大学病院 病理診断部³

O-13 巨大な腎良性間葉系腫瘍の1例

清水 輝彦¹、菅原 敬文¹、田邊 裕貴¹、細川 浩平¹、梶原 誠¹、高橋 忠章¹、
酒井 伸也¹、篠森 健介²、橋根 勝義²、寺本 典弘³

四国がんセンター 放射線診断科¹、四国がんセンター 泌尿器科²、四国がんセンター 病理科³

O-14 隔壁様の石灰化を呈した後腎性腺腫の1例

稲井 良太¹、三森 天人¹、長谷聡一郎¹、武本 充広¹、松原伸一郎¹、藤澤 真義²、
岡本 雅之³、金澤 右⁴

姫路赤十字病院 放射線科¹、姫路赤十字病院 病理²、姫路赤十字病院 泌尿器科³、
岡山大学医学部 放射線科⁴

O-15 後腹膜に生じた低悪性度線維粘液肉腫の1例

佐藤 滋高¹、大田 信一¹、白波瀬 歩¹、青木 健¹、森 里美¹、友澤 裕樹¹、
渡辺 尚武¹、大谷 秀司¹、園田 明永¹、北原 均¹、田中 豊彦¹、石田 光明²、
高橋 雅士¹、村田喜代史¹

滋賀医科大学 放射線科¹、滋賀医科大学 病理部²

O-16 腎粘液管状紡錘細胞癌の1例

坪山 尚寛¹、金 東石¹、堀 由美子²、森井 英一²、中本 篤¹、堀 雅敏¹、
巽 光朗¹、大西 裕満¹、坂根 誠¹、青笹 克之²、富山 憲幸¹

大阪大学大学院医学系研究科 放射線医学講座¹、大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学教室²

11:15~11:45 基調講演1：バイエル薬品株式会社 共催セミナー

座 長 吉満 研吾 (福岡大学医学部 放射線医学教室)
演 者 西原 利治 (高知大学医学部 消化器内科学講座)

『脂肪性肝疾患の臨床と画像診断』

11:50~12:40 ランチョンセミナー1：GEヘルスケア・ジャパン株式会社

座長 鳴海 善文 (大阪医科大学 放射線医学教室)

演者 谷本 伸弘 (慶應義塾大学医学部 放射線診断科)

『Discovery MR 750 3.0Tの現状』

12:40~13:10 昼食(3F 宴会場にて)

12:40~13:10 社員総会(世話人会)(15F スカイアトリウムにて)

13:10~13:45 セッション4 泌尿器-3(5題)

座長 陣崎 雅弘 (慶應大学 放射線診断科)

コメンテーター 佐藤 隆夫 (近畿大学医学部附属病院 病院病理部)

0-17 Botryoid Wilms 腫瘍の1例

西田 香織^{1,2}、後藤 紀子¹、後藤真理子¹、赤澤健太郎¹、西村 元喜¹、山田 恵¹、
吉川 敏一²

京都府立医科大学 放射線診断治療学¹、京都府立医科大学 医療情報通信学講座²

0-18 三年間の経過観察で診断し得た嚢胞性腎癌断端部再発の1例

佐藤 寛子¹、田嶋 強¹、木村 健¹、池澤 英里²、近藤 恒徳²、田邊 一成²、
西川 敏郎³、坂井 修二¹

東京女子医科大学病院 画像診断・核医学科¹、東京女子医科大学病院 泌尿器科²、
東京女子医科大学病院 病理診断科³

0-19 術前診断に苦慮した腎盂癌の1例

倉田 直樹、北井 里実、松島 理士、五十嵐隆朗、川上 剛、関谷 透、
福田 国彦

東京慈恵会医科大学 放射線医学講座

0-20 腎のMalignant Rhabdoid Tumor(MRTK)の1例

森田 有香¹、野崎 太希¹、槇殿文香理²、松迫 正樹¹、細谷 要介³、真部 淳³、
細谷 亮太³、川野 孝文⁴、鈴木 高祐⁵、齋田 幸久¹

聖路加国際病院 放射線科¹、東京都立小児総合医療センター 放射線科²、聖路加国際病院 小児科³、
聖路加国際病院 小児外科⁴、聖路加国際病院 病理診断科⁵

0-21 腎原発angiosarcomaの1例

巷岡 祐子¹、竹田 利明¹、山崎 裕哉¹、森 なお子¹、古寺 順一¹、田中 道雄²
都立広尾病院 診療放射線科¹、都立広尾病院 検査科²

13:45~14:00 事務局連絡

14:00~14:42 セッション5 子宮(6題)

座 長 竹内麻由美 (徳島大学 放射線科)
コメンテーター 三上 芳喜 (京都大学医学部附属病院 病理診断部)

O-22 MRI画像が診断に有用となった既存の平滑筋腫から発生した平滑筋肉腫の2例

佐藤 章子¹、麻谷 美奈¹、吉村 宣彦¹、八幡 哲郎²、梅津 哉³、田中 憲一²、青山 英史¹

新潟大学医学部 放射線医学講座¹、新潟大学医学部 産科婦人科学講座²、新潟大学病院 病理部³

O-23 赤色変性様のMRI所見を呈した子宮平滑筋肉腫の1例

麻谷 美奈¹、佐藤 章子¹、吉村 宣彦²、青山 英史¹、鈴木 孝明³、風間 芳樹³、長谷川 剛⁴

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍放射線分野¹、新潟大学医歯学総合病院 放射線部²、県立小出病院 産婦人科³、新潟大学大学院医歯学総合研究科 第二病理学教室⁴

O-24 子宮内膜間質肉腫の1例

葛原 佑子¹、羽室 雅夫¹、濱澤 良将¹、阪井 剛¹、谷口 脩二¹、井上 佑一¹、瀬浦 宏崇²、岡村 光英²、森山 明宏³、東 千尋³、仙崎 英人⁴

大阪府済生会中津病院 放射線診断科¹、大阪府済生会中津病院 PET センター²、大阪府済生会中津病院 産婦人科³、大阪府済生会中津病院 病理診断科⁴

O-25 子宮頸部から発生した胎児型横紋筋肉腫の1例

角 明子^{1,2}、内田 政史³、真田 咲子²、久能由記子¹、西尾 真⁴、嘉村 敏治⁴、矢野 博久²、早瀬 尚文¹

久留米大学 放射線医学教室¹、久留米大学 病理学講座²、久留米大学医療センター 放射線科³、久留米大学 産婦人科学教室⁴

O-26 子宮体癌術後1年6か月目に十二指腸転移を生じた1例

横谷 繁郎¹、細木 拓野¹、長谷川義尚¹、高見 元敏¹、岩見州一郎²、伴 千秋²、高橋 卓也³、児玉 良典³

森之宮クリニック 診療部¹、国立病院機構 大阪医療センター 産婦人科²、国立病院機構 大阪医療センター 病理診断科³

O-27 子宮体部原発扁平上皮癌の1例

上野 嘉子¹、北島 一宏¹、前田 哲雄¹、高橋 哲¹、蝦名 康彦²、山田 秀人²、原 重雄³、伊藤 智雄³、杉村 和朗¹

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座放射線医学分野¹、神戸大学大学院医学研究科 外科系講座産科婦人科学分野²、神戸大学大学院医学研究科 病理学講座病理診断学分野³

14:45~15:30 ティータイムセミナー：株式会社フィリップス エレクトロニクス ジャパン

座 長 坂井 修二 (東京女子医科大学 画像診断学・核医学分野)

演 者 新本 弘 (防衛医科大学校病院 放射線科)

『Ingenia 1.5T 腹部領域の有用性』

演 者 那須 克宏 (筑波大学附属病院 放射線科)

『3.0T 腹部領域の最前線』

15:30~15:45 ティータイム(3F 宴会場)

15:45~16:20 セッション6 子宮・卵巣(5題)

座 長 三森 天人 (姫路赤十字病院 放射線科)

コメンテーター 三上 芳喜 (京都大学医学部附属病院 病理診断部)

○-28 診断に苦慮した胎盤部トロホブラスト腫瘍(PSTT)の1例

橋本美智子¹、田中優美子²、岡田 智志³、越智 寛幸³、斎田 司⁴、高屋敷典生⁵、
吉川 裕之³、南 学²

筑波大学附属病院 放射線診断・IVR診療グループ¹、筑波大学医学医療系 放射線医学²、
筑波大学医学医療系 産科婦人科学³、筑波大学大学院人間総合科学研究科 応用放射線医学分野⁴、
筑波大学医学医療系 診断病理⁵

○-29 異所性子宮内膜症の2例

西尾 直子¹、嶋田功太郎¹、山本 貴之¹、渡部 正雄¹、河村 晃¹、筒井 一成¹、
出口 靖記²、横山 智至²

日本赤十字社和歌山医療センター 放射線科¹、日本赤十字社和歌山医療センター 外科²

○-30 Wolffian duct tumor の1例

小林 正周¹、岡田 良行¹、古寺 順一¹、鈴木 秀明¹、鈴木 賢一¹、白神 伸之¹、
平野 孝幸²、羽鳥 努²、渋谷 和俊²

東邦大学医療センター大森病院 放射線科¹、東邦大学医療センター大森病院 病院病理科²

○-31 蠕動運動の月経周期による変化を観察した双角子宮の1例

荒木 哲朗¹、今岡いずみ²、日高正二郎²、岡田 真広²、柳生 行伸²、熊野 正士²、
石井 一成²、足利竜一郎²、村上 卓道²

近畿大学医学部奈良病院 放射線科¹、近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門²

○-32 妊娠経過中に子宮腺筋症の増大、縮小を認めた2例

岡田 慎悟¹、山城 雄貴¹、加藤 仁美¹、道正 理恵¹、柘植 大輔¹、山崎 香菜¹、
桑鶴 良平¹、牧野真太郎²、竹田 省²

順天堂大学医学部附属順天堂医院 放射線科¹、順天堂大学医学部附属順天堂医院 産婦人科学講座²

16:20~17:02 セッション7 卵巣(6題)

座 長 北井 里美 (東京慈恵会医科大学 放射線医学講座)
コメンテーター 三上 芳喜 (京都大学医学部附属病院 病理診断部)

O-33 卵巣clear cell adenocarcinofibromaの1例

乗金精一郎¹、上者 郁夫²、井石龍比古¹、大前 健一¹、山崎 理恵³、金澤 右⁴
岩国医療センター 放射線科¹、岡山大学医学部 保健学科²、岩国医療センター 臨床研究科³、
岡山大学医学部 放射線科⁴

O-34 画像上粘液性嚢胞腺腫が疑われた卵巣悪性腫瘍の1例

小岩原 元¹、吉岡 真二¹、仙波 芳樹¹、浦島 雄介¹、村田 繁利¹、大城 由美²、
飛田 陽²
松山赤十字病院 放射線科¹、松山赤十字病院 病理診断科²

O-35 乳癌の組織像を伴った卵巣漿液性腺癌の1例

三森 天人¹、稲井 良太¹、長谷聡一郎¹、武本 充広¹、松原伸一郎¹、藤澤 真義²、
谷川真奈美³、立岩 尚³、赤松 信雄³、上者 郁夫⁴、金澤 右⁵
姫路赤十字病院 放射線科¹、姫路赤十字病院 病理²、姫路赤十字病院 産婦人科³、
岡山大学医学部 保健学科⁴、岡山大学医学部 放射線科⁵

O-36 漿液性境界悪性表在性腫瘍に類似した卵巣粘液性腫瘍の1例

島本 綾¹、磯本 一郎¹、瀬川 景子¹、上谷 雅孝¹、松本亜由美²、松脇 隆博²、
安倍 邦子³、林 徳真吉³、三上 芳喜⁴
長崎大学病院 放射線科¹、長崎大学病院 産婦人科²、長崎大学病院 病理部³、
京都大学医学部附属病院 病理診断部⁴

O-37 輪状細管を伴う性索腫瘍の1例

杉原 英治¹、沢井 ユカ¹、長松 正章²、山崎 大³
市立貝塚病院 放射線科¹、市立貝塚病院 産婦人科²、市立貝塚病院 臨床検査科³

O-38 異所性子宮内膜の脱落膜化が卵巣腫瘍と鑑別困難であった1例

西原 陽介、白田 剛、日下部将史、村上 瑞穂、風岡 純一、白水 一郎、
野田 正信、町田 徹
NTT東日本関東病院 放射線部

17:05～17:45 **イブニングセミナー：シーメンス・ジャパン株式会社**

座 長 今岡いずみ (近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門)

演 者 藤本 晃司 (京都大学医学部附属病院 放射線診断科)

「子宮疾患のMRIにおける新たな潮流」

17:50～18:30 **ポスターディスカッション(4F・5F ホワイエ)**

18:30～ **クイズ症例回答公開(3F 宴会場)**

18:40～ **情報交換会(3F 宴会場)**

9:00~9:42 セッション8 胆膵-1(6題)

座 長 本杉宇太郎 (山梨大学 放射線医学教室)
コメンテーター 前西 修 (近畿大学医学部 病理学)

O-39 CIS病変で覆われた胆管内腔に肉腫様組織の腫瘍栓を認めた肝内胆管癌の1例

高村 朋宏¹、佐野 勝廣¹、本杉宇太郎¹、森阪 裕之¹、市川新太郎¹、市川 智章¹、
荒木 力¹、深澤 光晴²、松田 政徳³、藤井 秀樹³
山梨大学医学部 放射線科¹、山梨大学 第一内科²、山梨大学 第一外科³

O-40 中部胆管から壁外に一塊状の腫瘤を形成した充実腺癌の1例

古橋 尚博¹、鈴木耕次郎¹、高田 章¹、長縄 慎二¹、江畑 智希²、下山 芳江³
名古屋大学医学部 放射線科¹、名古屋大学医学部 消化器外科²、名古屋大学医学部 中検病理³

O-41 術後総胆管に生じた断端神経腫の1例

佐分利彰子¹、小野 麻美¹、小松 栄二¹、前田 徹¹、足立 英輔²、卜部 省悟³、
山田 康成⁴、松本 俊郎⁴、森 宣⁴
大分県立病院 放射線科¹、大分県立病院 外科²、大分県立病院 臨床検査科³、
大分大学医学部 臨床医学系 放射線医学講座⁴

O-42 Microadenomatosisを合併した多発膵内分泌腫瘍の1例

扇 尚弘¹、龍 泰治¹、斉藤 順子¹、遠藤 珠生¹、川島 博子¹、植田 文明¹、
蒲田 敏文¹、松井 修¹、北川 裕久²、太田 哲生²、北村 星子³
金沢大学大学院 医学系研究科経血管診療学¹、金沢大学大学院 がん局所制御学²、
金沢大学附属病院 病理部³

O-43 粘液性嚢胞腫瘍との鑑別が困難であった膵内分泌腫瘍の1例

高司 亮¹、山田 康成¹、松本 俊郎¹、本郷 哲央¹、森 宣¹、太田 正之²、
北野 正剛²、泥谷 直樹³、森山 正胤³
大分大学医学部 放射線医学講座¹、大分大学医学部 総合外科学第1講座²、
大分大学医学部 分子病理学講座³

O-44 膵炎症性腫瘤の1例

伊藤 茂樹¹、安藤 嘉朗¹、春田 純一²、三宅 秀夫³、江中 牧子⁴
名古屋第一赤十字病院 放射線診断科¹、名古屋第一赤十字病院 消化器内科²、
名古屋第一赤十字病院 消化器外科³、名古屋第一赤十字病院 病理⁴

0-45 膵脂肪置換と鑑別を要した孤立性肝細胞癌膵転移の1例

西尾福英之¹、丸上 永晃²、穴井 洋¹、末吉 智¹、田中 利洋¹、前田 新作¹、
正田 哲也¹、高濱 潤子¹、高野 将人³、野々村昭孝³、吉川 公彦¹
奈良県立医科大学 放射線科¹、奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部²、
奈良県立医科大学 病理診断部³

0-46 膵頭部異所性肝細胞癌の1例

石村茉莉子、影山 淳一、與座喜一郎、木下 敏史、三谷 昌弘
香川労災病院 放射線科

0-47 限局性膵萎縮を先行/併発した膵癌の6例

山田 篤史¹、左合 直¹、土居 幸司²、太田 諒³、小西二三男³
福井赤十字病院 放射線科¹、福井赤十字病院 外科²、福井赤十字病院 病理部³

0-48 浸潤性膵管癌 T1症例の画像と病理の対比

森阪 裕之、本杉宇太郎、市川 智章、佐野 勝廣、市川新太郎、荒木 力
山梨大学医学部 放射線科

0-49 腫瘍破裂が発見の契機となった膵芽腫の1例

藪崎 哲史¹、小野寺祐也¹、本多 昌平²、高桑 恵美³、原田 八重¹、坂本 圭太¹、
加藤 扶美¹、真鍋(大山)徳子¹、宮城 久之²、岡田 忠雄²、久保田佳奈子³、寺江 聡¹、
白土 博樹⁴
北海道大学病院 放射線診断科¹、北海道大学大学院医学研究科 外科学講座消化器外科学分野Ⅰ²、
北海道大学病院 病理部³、北海道大学大学院医学研究科 放射線科⁴

0-50 胆管内乳頭状腫瘍の1例

高良 憲一¹、齋藤 和博¹、赤田 壮市¹、粕谷 和彦²、高橋 礼典³、長尾 俊孝³、
徳植 公一¹
東京医科大学 放射線医学教室¹、東京医科大学 外科学第三講座²、東京医科大学 病理診断学講座³

0-51 3年経過を追えたIPN-Bの1例

田邊 裕貴¹、菅原 敬文¹、細川 浩平¹、梶原 誠¹、清水 輝彦¹、高橋 忠章¹、
酒井 伸也¹、大田 耕司²、棚田 稔²、灘野 成人³、西村理恵子⁴
四国がんセンター 放射線診断科¹、四国がんセンター 消化器外科²、四国がんセンター 消化器内科³、
四国がんセンター 臨床検査科⁴

口演 6月23日(土)

10:40~11:10 基調講演2：バイエル薬品株式会社 共催セミナー

座長 角谷 眞澄 (信州大学医学部 画像医学講座)

演者 西田 俊朗 (大阪府警察病院 外科)

『固形腫瘍に対する分子標的治療のモデルとしての消化管間質腫瘍(GIST)ー分子メカニズムと実地診療での経験からー』

11:10~11:30 展示協賛プレゼンテーション

座長 村上 卓道 (近畿大学医学部放射線医学教室 放射線診断学部門)

発表1：株式会社AZE

発表2：エーザイ株式会社

発表3：ピー・エス・ピー株式会社

発表4：富士フィルムメディカル株式会社

11:30~11:40 クイズ症例優秀者表彰

11:45~12:35 ランチョンセミナー2：東芝メディカルシステムズ株式会社

『3T MRIと320列面検出器CTで診るこれからの腹部画像診断』

座長 桑鶴 良平 (順天堂大学医学部放射線医学講座)

演者 生口 俊浩 (福山市民病院 放射線診断・IVR科)

演者 小林 達伺 (国立がん研究センター東病院 放射線診断科)

12:40~13:20 昼食(3F 宴会場にて)

13:20~13:50 打田賞受賞講演

表彰 打田日出夫

司会 松井 修

口演部門(消化器系)

EOBプリモビスト造影MRIで非典型的所見を示す肝細胞性結節:多段階発癌とMRI

山梨大学医学部 放射線医学教室 本杉宇太郎

口演部門(泌尿生殖器系)

転座型腎細胞癌の画像所見 ー多施設症例検討ー

慶應義塾大学医学部 放射線診断科 陣崎 雅弘

展示部門(消化器系)

左腎静脈内に穿通した腭仮性嚢胞の1例

大分大学医学部放射線医学講座 板谷 貴好

展示部門(消化器系)

胃に開口した膵胆管分離異所性開口の1例

聖マリアンナ医科大学 放射線科 大倉 直樹

展示部門(泌尿生殖器系)

Multiple extrauterine adenomyomasの一例:画像所見、病理所見からの発生モデルに対する考察

大阪医科大学 放射線科 中井 豪

13:50~14:10 ゴールドメダル授与式

14:10~14:52 セッション10 肝-1(6題)

座 長 岡田 真広 (近畿大学 放射線診断学部門)
コメンテーター 若狭 研一 (大阪市立大学 診断病理学)

0-52 造影超音波を施行した細胆管癌成分を有する混合型肝癌の1例

高橋 亜希¹、丸上 永晃²、平井都始子²、高濱 潤子¹、豊原 真久³、野見 武男⁴、
庄 雅之⁴、高野 将人⁵

奈良県立医科大学 放射線科¹、奈良県立医科大学 中央内視鏡超音波部²、
奈良県立医科大学 消化器外科³、奈良県立医科大学 消化器内科⁴、奈良県立医科大学 病理診断学講座⁵

0-53 若年女性の非硬変肝に発生した巨大肝細胞癌および多発早期濃染結節の1例

川田 紘資、五島 聡、近藤 浩史、野田 佳史、兼松 雅之
岐阜大学医学部附属病院 放射線科

0-54 縮小傾向を示し膿瘍との鑑別が困難であった肝細胞癌の1例

山崎 元彦、高野 徹、吉村 宣彦、青山 英史
新潟大学医学部 放射線科

0-55 肝実質転移を伴わないS状結腸癌術後門脈腫瘍栓の1例

里上 直衛¹、早川 克己¹、藤本 良太¹、谷掛 雅人¹、佐藤 文恵¹、上 和弘²、
河野 文彦³
京都市立病院 放射線科¹、京都市立病院 外科²、京都市立病院 病理診断科³

0-56 門脈域に沿って特殊な発育形態を示した肝内胆管癌の1例

小坂 一斗¹、松原 崇史¹、小林 聡¹、蒲田 敏文¹、林 泰寛²、太田 哲生²、
北村 星子³、佐々木素子³、中沼 安二³、高村 博之²、谷 卓²、永井 圭一¹
金沢大学 放射線科¹、金沢大学 肝胆膵移植外科²、金沢大学 形態機能病理学³

0-57 若年型糖尿病に生じた肝外発育性腫瘤の1例

粕谷 秀輔¹、北村 範子¹、笠井ルミ子¹、工藤 秀康¹、中塚 智也¹、稲岡 努¹、
長谷部光泉¹、寺田 一志¹、山口 崇²、瓜田 祐³、徳山 宣⁴、蛭田 啓之⁴
東邦大学医療センター佐倉病院 放射線科¹、
東邦大学医療センター佐倉病院 糖尿病・内分泌・代謝センター²、
東邦大学医療センター佐倉病院 外科³、東邦大学医療センター佐倉病院 病理部⁴

14:52~15:34 セッション11 肝-2(6題)

座 長 鶴崎 正勝 (島根大学医学部附属病院 放射線科)
コメンテーター 若狭 研一 (大阪市立大学 診断病理学)

O-58 肝原発扁平上皮癌の1例

安座間真也¹、江頭 秀哲¹、入江 裕之¹、森戸 清人²、三好 篤²、北原 賢二²、
能城 浩和²、甲斐 敬太³

佐賀大学医学部 放射線科¹、佐賀大学医学部 一般・消化器外科²、佐賀大学医学部 病理³

O-59 肝原発の腺扁平上皮癌の1例

藤田 展宏¹、西江 昭弘¹、浅山 良樹¹、石神 康生¹、柿原 大輔²、牛島 泰宏¹、
高山 幸久¹、調 憲³、相島 慎一⁴、本田 浩¹

九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科¹、九州大学大学院 医学研究院 分子イメージング・診断学²、
九州大学大学院 医学研究院 消化器・総合外科³、九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理⁴

O-60 胆管嚢胞腺癌と画像で診断した分類不能な肝原発腫瘍の1例

市川新太郎¹、佐野 勝廣¹、本杉宇太郎¹、森阪 裕之¹、市川 智章¹、荒木 力¹、
松田 政徳²、藤井 秀樹²

山梨大学医学部 放射線科¹、山梨大学医学部 第一外科²

O-61 Multicystic Biliary Hamartomaの1例

原田 八重¹、真鍋(大山)徳子¹、横尾 英樹²、三橋 智子³、薮崎 哲史¹、坂本 圭太¹、
加藤 扶美¹、小野寺祐也¹、神山 俊哉²、寺江 聡¹、白土 博樹⁴

北海道大学病院 放射線診断科¹、北海道大学大学院医学研究科 外科学講座消化器外科学分野 I²、
北海道大学病院 病理部³、北海道大学大学院医学研究科 放射線科⁴

O-62 肝MCN(mucinous cystic neoplasm)の1例

高橋 正明¹、山田 哲¹、上田 和彦¹、杉山由紀子¹、藤田 幸恵¹、藤田 顕¹、
黒住 昌弘¹、藤永 康成¹、宮川 眞一²、吉澤 明彦³、角谷 眞澄¹

信州大学医学部 画像医学講座¹、信州大学医学部 外科学講座²、
信州大学医学部附属病院 臨床検査部³

O-63 肝内脾症の1例

中村 優子¹、海地 陽子¹、谷 千尋¹、本田有紀子¹、古本 大典¹、谷為 恵三¹、
立神 史稔¹、柿沢 秀明¹、伊達 秀二¹、栗井 和夫¹、茶山 一彰²、田代 裕尊³、
大段 秀樹³、有廣 光司⁴

広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 放射線診断学¹、広島大学大学院 分子病態制御内科学²、
広島大学大学院 外科学³、広島大学病院 病理診断科⁴

15:34~15:45 コーヒーブレイク (約10分)

0-64 門脈が流出血管と考えられた類上皮型肝血管筋脂肪腫の1例

小川 真代¹、丸上 永晃²、高濱 潤子³、高橋 亜希³、市橋 成夫³、正田 哲也³、
 吉川 公彦³、野見 武男⁴、庄 雅之⁴、森田 剛平⁵、野々村昭孝⁵

済生会中和病院 放射線科¹、奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部²、
 奈良県立医科大学 放射線科³、奈良県立医科大学 消化器外科⁴、奈良県立医科大学 病理診断学講座⁵

0-65 浸潤性発育を示した多発肝AMLの1例

大西 康之¹、渡邊 祐司¹、百々 俊樹¹、奥村 明¹、永山 雅子¹、天羽 賢樹¹、
 石守 崇好¹、中下 悟¹、石橋 愛¹、西松 佳代¹、野橋 智美¹、山田 剛史¹、
 吉野久美子¹、北口 耕輔¹、熊谷 健¹、田中 宏明¹、和仁 洋次²、堀田真智子²、
 能登原憲司²

倉敷中央病院 放射線科¹、倉敷中央病院 病理検査科²

0-66 肝原発神経鞘腫の1例

八巻 利弘¹、高橋 康二¹、山田 有則¹、油野 民雄¹、谷口 雅彦²、太田 雄²、
 麻生 和信³、三代川齊之⁴

旭川医科大学 放射線科¹、旭川医科大学 外科²、旭川医科大学 内科³、旭川医科大学 病理部⁴

0-67 著明な線維性間質を伴った血管腫の1例

吉田耕太郎¹、小坂 一斗¹、小林 聡¹、蒲田 敏文¹、松井 修¹、西田 宏人²、
 荒井 邦明³、山下 竜也³、金子 周一³、中沼 安二⁴

金沢大学医学部 放射線科¹、浅ノ川総合病院 放射線科²、金沢大学 消化器内科³、
 金沢大学 形態機能病理学⁴

0-68 胃粘膜下腫瘍と鑑別が困難であった肝血管腫の1例

桑原 遼、濱田 彩、坂田 昭彦、黒田 昌志、広川 侑奨、伊藤 剛
 京都医療センター 放射線科

0-69 Primary hepatic paragangliomaの1例

佐藤 葉子¹、佐野 勝廣²、本杉宇太郎²、市川 智章²、荒木 力²、座光寺秀典³、
 松田 政徳⁴、中澤 匡男⁵、大石 直輝⁵

甲府脳神経外科病院 PETセンター¹、山梨大学 放射線科²、山梨大学 泌尿器科³、
 山梨大学 第一外科⁴、山梨大学 人体病理学⁵

0-70 多彩な画像所見を示した多発肝カルチノイドの1例

坂本 綾美¹、林 秀行¹、坂本 一郎¹、磯本 一郎¹、上谷 雅孝¹、曾山 明彦²、
 高槻 光寿²、江口 晋²、田浦 直太³、市川 辰樹³、中尾 一彦³、安倍 邦子⁴、
 林 徳真吉⁴

長崎大学病院 放射線科¹、長崎大学病院 移植・消化器外科²、長崎大学病院 消化器内科³、
 長崎大学病院 病理部⁴

16:34~17:16 セッション13 肝-4(6題)

座 長 大西 裕満 (大阪大学 放射線統合医学講座 放射線医学講座)
コメンテーター 若狭 研一 (大阪市立大学 診断病理学)

0-71 原発性胆汁性肝硬変におけるGd-EOB-DTPAによる門脈周囲の造影効果

森 菜緒子、津田 雅視
東北大学 放射線診断科

0-72 早期肝癌との鑑別に苦慮したアルコール性肝過形成結節の1例

佐野 勝廣¹、本杉宇太郎¹、森阪 裕之¹、市川新太郎¹、市川 智章¹、荒木 力¹、
松田 政徳²、藤井 秀樹²、中野 雅行³
山梨大学医学部 放射線医学教室¹、山梨大学医学部 第一外科²、大船中央病院 病理科³

0-73 脾漿液性嚢胞腫瘍の肝転移で周辺部肝実質に過形成性変化を伴った1例

山本 晃大¹、八坂耕一郎¹、渡谷 岳行¹、赤羽 正章¹、大友 邦¹、青木 琢²、
國土 典宏²、篠崎 綾³
東京大学医学部 放射線医学教室¹、東京大学医学部附属病院 肝胆脾外科・人工臓器移植外科²、
東京大学医学部 病理学教室³

0-74 肝 reactive lymphoid hyperplasia の1例

黒岩 信子¹、谷本 伸弘¹、田村 全¹、上野 彰久¹、奥田 茂男¹、陣崎 雅弘¹、
栗林 幸夫¹、江本 桂²、真杉 洋平²、坂元 享宇²、田邊 稔³
慶應義塾大学医学部 放射線科学教室¹、慶應義塾大学医学部 病理学教室²、
慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科³

0-75 葛西手術後の胆道閉鎖症に認められた肝代償性肥大の1例

米田 憲秀¹、小林 聡¹、北尾 梓¹、小坂 一斗¹、池田 博子²、蒲田 敏文¹、
松井 修¹、中沼 安二³
金沢大学 放射線科¹、金沢大学 病理部²、金沢大学 形態機能病理学³

0-76 肝臓のCT所見から診断し得た遺伝性出血性毛細血管拡張症の1例

小河 希依¹、上田 依子¹、横山 堅志¹、川上 光一¹、松本 恒司²
医仁会武田総合病院 放射線科¹、松本クリニック 内科・消化器科²

17:16~

閉会の挨拶

ポスターディスカッション1

座長 上田 和彦 (信州大学 画像医学講座)

P-1 CT,MRI上、肝膿瘍との鑑別に苦慮した肝内胆管腺扁平上皮癌の1例

戸上 泉¹、坪井 有加¹、長谷川 明¹、守都 常晴¹、石原 節子¹、安井光太郎¹、
仁熊 健文²、児島 亨²、三村 哲重²、能勢総一郎³

岡山済生会総合病院 放射線科¹、岡山済生会総合病院 外科²、岡山済生会総合病院 病理³

P-2 広範な早期濃染を呈した胆管細胞癌の1例

山本 聖人¹、稲田 悠紀¹、東山 央¹、中井 豪¹、赤木 弘之¹、結城 雅子¹、
伊藤 康志¹、松本 充¹、山本 和宏¹、鳴海 善文¹、林 道廣²、内山 和久²、
竹下 篤³、辻 求³

大阪医科大学附属病院 放射線医学教室¹、大阪医科大学附属病院 消化器外科学教室²、
大阪医科大学附属病院 病理学教室³

P-3 細胆管細胞癌の1例

平川 耕大¹、瀧川 政和¹、大森 智子¹、田口智香子¹、海津 貴史²、坂本友見子²、
齋藤 生朗³、堀田 綾子³、佐々木真弓⁴

国立病院機構 相模原病院 放射線科¹、国立病院機構 相模原病院 外科²、
国立病院機構 相模原病院 病理³、至誠会第二病院 放射線科⁴

P-4 肝未分化肉腫の2例

堀越 琢郎¹、本折 健²、井上 幸平²、東出 高至¹、横田 元¹、菱木 知郎³、
吉田 英生³、吉留 博之⁴、宮崎 勝⁴、宇野 隆²

千葉大学医学部附属病院 放射線科¹、千葉大学大学院医学研究院 放射線医学²、
千葉大学大学院医学研究院 小児外科学³、千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学⁴

P-5 肝原発悪性リンパ腫の1例

雫石 崇¹、原留 弘樹¹、相澤 拓也¹、坂口 雅州¹、前林 俊也¹、山崎慎太郎²、
中山 壽之²、杉谷 雅彦³、高山 忠利²、阿部 修¹

日本大学医学部 放射線医学系¹、日本大学医学部 消化器外科学分野²、
日本大学医学部 病態病理学系病理学分野³

P-6 肝粘液癌の1例

川原 清哉、磯田 裕義、古田 昭寛、清水 大功、富樫かおり
京都大学医学部 放射線診断科大学院

P-7 左三角間膜内に発生した異所性肝細胞癌の1例

倉田 靖桐¹、上田 浩之¹、日野田卓也¹、永野 仁美¹、有蘭 茂樹¹、伊藤 亨¹、
三木 明²、今井 幸弘³、子安 翔¹、越智 純子¹、山下 大祐³

神戸市立医療センター中央市民病院 画像診断・放射線治療科¹、
神戸市立医療センター中央市民病院 外科²、神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科³

P-8 IPNB由来浸潤癌3症例の検討

吉岡 真二¹、小岩原 元¹、仙波 芳樹¹、浦島 雄介¹、村田 繁利¹、飛田 陽²、
大城 由美²
松山赤十字病院 放射線科¹、松山赤十字病院 病理部²

ポスターディスカッション2

座長 吉川 武 (神戸大学 放射線医学分野)

P-9 特徴的な画像を呈した原発性硬化性胆管炎の1例

山田ちいほ¹、杉原 良¹、朝戸 信行¹、山本 浩詞¹、星田 義彦²
住友病院 放射線科¹、住友病院 病理部²

P-10 肝右葉後区域に発生した多嚢胞性胆管性過誤腫の1例

浪本 智弘¹、尾田 済太郎¹、宇都宮大輔¹、津田 紀子¹、別府 透²、猪山 賢一³、
山下 康行¹
熊本大学医学部 放射線診断学¹、熊本大学医学部 消化器外科²、熊本大学医学部 臨床病理部³

P-11 肝神経内分泌腫瘍の1例

遠山 純¹、森永 郷子¹、井上 大¹、阿保 齊¹、出町 洋¹、野田 八嗣²、
内山 明央³、石澤 伸³
富山県立中央病院 放射線科¹、富山県立中央病院 消化器内科²、富山県立中央病院 病理診断科³

P-12 FDG-PETが治療効果判定に有用であった肝類上皮血管内皮腫の1例

田辺 昌寛^{1,2}、森谷 和子²、山下 富夫³、藤田 岳史^{1,2}、松永 尚文¹、河上 康彦⁴、
日山 篤人⁴、菅 一能⁴、中尾 聖¹、上田 高顕¹、小野田 秀子¹
山口大学医学部 放射線科¹、宇部興産中央病院 放射線科²、市立舞鶴市民病院 放射線科³、
セントヒル病院 放射線科⁴

P-13 epithelioid cellを主体とした肝血管筋脂肪腫(PEComa)の1例

坪井 有加¹、長谷川 明¹、守都 常晴¹、石原 節子¹、安井光太郎¹、戸上 泉¹、
高木 敏行²、児島 亨³、仁熊 健文³、三村 哲重³、能勢総一郎⁴
岡山済生会総合病院 放射線科¹、岡山済生会総合病院 内科²、岡山済生会総合病院 外科³、
岡山済生会総合病院 病理⁴

P-14 自己免疫性肝炎による肝硬変に合併した肝過形成結節の1例

高橋 広行¹、青木 隆敏¹、大木 穂高¹、林田 佳子¹、興梠 征典¹、日浦 政明²、
原田 大²、松山 篤二³、中島 収⁴
産業医科大学医学部 放射線科学教室¹、産業医科大学医学部 第3内科学²、
産業医科大学医学部 第1病理学³、久留米大学医学部付属病院 臨床検査部⁴

P-15 先天性肝外門脈体循環短絡の1例 – 短絡路閉塞試験による術前治療効果判定の試み –

山室 博¹、岩田 美郎¹、永田 芳美¹、杉尾 芳紀²、町村 貴郎³
東海大学医学部附属大磯病院 放射線科¹、大船中央病院 外科²、池上総合病院 外科³

ポスターディスカッション3

座長 伊藤 高広 (奈良県立医科大学 放射線医学教室)

P-16 急速に進行、DICとなった脾臓血管肉腫の1例

臼杵 則朗¹、豊島 正実¹、山下 幸政²、勝山 栄治³
神戸市立医療センター西市民病院 放射線科¹、神戸市立医療センター西市民病院 消化器内科²、
神戸市立医療センター西市民病院 病理³

P-17 Intradiaphragmatic bronchogenic cystの1例

鈴木美知子¹、加藤 健一¹、江原 茂¹、上杉 憲幸²
岩手医科大学 放射線科¹、岩手医科大学 臨床病理²

P-18 高分化型乳頭状中皮腫からびまん型悪性中皮腫へ悪性転化した1例

崔 翔栄¹、竹山 信之¹、岡部 尚行¹、林 高樹¹、橋本 東児¹、根本 洋²、
日比 健志²、楯 玄秀³
昭和大学藤が丘病院 放射線科¹、昭和大学藤が丘病院 外科²、昭和大学藤が丘病院 病院病理科³

P-19 peritoneal strumosisの1例

吉川 達也¹、佐藤 修¹、浅井 俊輔¹、松本 知博¹、飯田 茂晴¹、森下 博之¹、
平本 秀一²、糸川 嘉樹²、樋野 陽子³、浦田 洋二³
京都第一赤十字病院 放射線診断科¹、京都第一赤十字病院 外科²、京都第一赤十字病院 病理診断科³

P-20 腹膜悪性中皮腫の1例

中村 信一¹、木藤 雅文¹、中浦 猛¹、吉仲 一郎²、高城 克暢²、坂本 慶太²、
土井 康郎²、高田 登²、原田 和則²、植村正三郎³、山下 康行⁴
天草地域医療センター 放射線科¹、天草地域医療センター 外科²、
天草地域医療センター 脳神経外科³、熊本大学大学院生命科学研究部 放射線診断学分野⁴

P-21 骨化を伴う胃原発GISTの1例

井上 明星¹、板橋健太郎¹、井本 勝治¹、山崎 道夫¹、坂本 力¹、森田 幸子²、
岡本 正吾³、伊藤 靖⁴
公立甲賀病院 放射線科¹、公立甲賀病院 内科²、公立甲賀病院 外科³、
滋賀医科大学 病理学講座疾患制御病理学部門⁴

P-22 稀な鼠径部のヘルニアの2例：鼠径ヘルニア偽還納とLaugierヘルニア

星合 壮大¹、森 健作¹、椎貝 真成¹、岡本 嘉一¹、塩谷 清司²、阿竹 茂³、南 学¹

筑波大学附属病院 放射線診断・IVR科¹、筑波メディカルセンター病院 放射線科²、筑波メディカルセンター病院 救急診療科³

ポスターディスカッション4

座長 熊野 正士(大阪医科大学 放射線医学教室)

P-23 腸間膜reversed rotationの1例

信澤 宏¹、守屋 信和¹、高柳 美樹¹、後藤 学²、関川 浩司²
川崎幸病院 放射線科¹、川崎幸病院 外科²

P-24 小腸間膜異所性瘻の1例

森島 裕策¹、奥村 亮介¹、上野 誠¹、八隅秀二郎²、光野 重根¹
財団法人田附興風会医学研究所北野病院 放射線科¹、
財団法人田附興風会医学研究所北野病院 消化器センター²

P-25 虫垂重積の1例

扇谷 芳光¹、宗近 次朗¹、石塚久美子¹、西城 誠¹、須山 淳平¹、橋爪 崇¹、
崔 翔英¹、清野 哲孝¹、廣瀬 正典¹、後閑 武彦¹、岩田 朋之²、野本 朋宏²、
井廻 道夫²、榎並 延太³、青木 武士³、村上 雅彦³、大池 信之⁴
昭和大学医学部 放射線医学教室¹、昭和大学医学部 内科学講座消化器内科学部門²、
昭和大学医学部 消化器・一般外科学教室³、昭和大学医学部 第一病理学教室⁴

P-26 日本住血吸虫症に合併した大腸癌の1例

福富 光¹、小山 貴¹、前倉 拓也¹、岡田 務¹、塩崎 俊城¹、藤堂 義郎¹、
片岡 幸三²、金澤 旭宣²、竹田 治彦³、大崎 往夫³、新宅 雅幸⁴
大阪赤十字病院 放射線診断科¹、大阪赤十字病院 外科²、大阪赤十字病院 消化器内科³、
大阪赤十字病院 病理部⁴

P-27 小腸EASLに胃癌を合併した1例

森 博史¹、鶴崎 正勝¹、稗田 洋子¹、丸山 光也¹、荒木 和美¹、神山 和俊¹、
勝部 敬¹、福庭 栄治¹、吉廻 毅¹、北垣 一¹、下条 芳秀²、平原 典幸²、
田島 義証²、石川 典由³、丸山理留敬³
島根大学医学部附属病院 放射線科¹、島根大学医学部附属病院 消化器外科²、
島根大学医学部附属病院 病理部³

P-28 下行結腸に発生した神経鞘腫の1例

北山 聡明¹、吉川 浩之²、木戸上真也²、中場 寛行²、有馬 良一³
国家公務員共済組合連合会 大手前病院 放射線科¹、国家公務員共済組合連合会 大手前病院 外科²、
国家公務員共済組合連合会 大手前病院 病理³

P-29 小腸原発と考えられたclear cell sarcomaの1例

原 拓也¹、山下 智裕¹、橋本 順¹、市川 珠紀¹、城石 大¹、関口 達也¹、
梶原 博²、今井 裕¹
東海大学医学部 画像診断科¹、東海大学医学部 病理診断科²

ポスターディスカッション5

座 長 田村 綾子 (お茶の水駿河台クリニック 放射線科)

P-30 著明な石灰化を伴ったGliomatosis peritoneiの1例

広村 忠雄¹、佐藤 昌明²
北斗病院 放射線科¹、NTT東日本札幌病院 病理²

P-31 卵巣粘液性嚢胞腺腫に良性ブレンナー腫瘍を合併した5例の検討

加藤 博基¹、星 博昭¹、兼松 雅之¹、古井 辰郎²、森重健一郎²、廣瀬 善信³
岐阜大学医学部 放射線科¹、岐阜大学医学部 成育医療科・女性科²、岐阜大学医学部 病理部³

P-32 卵巣成熟奇形種由来のPNETの一例

阿保 齊¹、遠山 純¹、森永 響子¹、井上 大¹、出町 洋¹、舌野 靖²、
谷村 悟²、中野 隆²、寺田 逸郎³、内山 明央⁴、石澤 伸⁴、星野 顕宏⁵、
野村 恵子⁵、金兼 弘和⁵
富山県立中央病院 放射線科¹、富山県立中央病院 産婦人科²、富山県立中央病院 外科³、
富山県立中央病院 病理診断科⁴、富山大学附属病院 小児総合内科⁵

P-33 FDG-PETが有用であった卵巣カルチノイドの1例

堀川 雅弘¹、新本 弘¹、曾我 茂義¹、塩見 英佑¹、田村 千春¹、川内 利夫¹、
小須田 茂¹、加地 辰美¹、宮居 弘輔²、島崎 英幸²
防衛医科大学校 放射線医学講座¹、防衛医科大学校 検査部²

P-34 8年の経過観察中に悪性化を認めたブレンナー腫瘍の1例

堀 沙恵香¹、高濱 潤子¹、服部有希子¹、高橋 亜希¹、丸上 永晃¹、武輪 恵²、
伊藤 高広¹、吉川 公彦¹、森田 剛平³、榎本 泰典³
奈良県立医科大学 放射線科¹、平成記念病院 放射線科²、奈良県立医科大学 病院病理部³

P-35 卵巣境界悪性明細胞性腺線維腫を背景に発生した明細胞腺癌の1例

竹内麻由美¹、松崎 健司¹、原田 雅史¹、古本 博孝²、上原 久典³
徳島大学医学部 放射線科¹、徳島大学医学部 産婦人科²、徳島大学医学部 環境病理³

P-36 成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化を合併した卵巣甲状腺腫の1例

小笠原 篤、林田 佳子、大木 穂高、青木 隆敏、興梠 征典
産業医科大学 放射線科

P-37 悪性卵巣腫瘍との鑑別に苦慮した黄色肉芽腫性卵管炎の1例

渋谷 剛一、廣瀬 勝己、小野 修一、三浦 弘行、対馬 史泰、清野 浩子、
掛端 伸也、藤田 大真、徳田 俊英、高井 良尋
弘前大学医学部 附属病院放射線科

ポスターディスカッション6

座長 木戸 晶 (京都大学 放射線医学講座 画像診断・核医学)

P-38 子宮漿膜下に巨大腫瘤を形成した低悪性度子宮内膜間質肉腫の1例

宇賀 麻由¹、上者 郁夫²、笹井 信也⁴、井田健太郎⁴、加地 充昌⁴、柳井 広之³、
粉川 怜子¹、正岡 佳久¹、新家 崇義¹、加藤 勝也¹、郷原 英夫¹、佐藤 修平¹、
金澤 右¹

岡山大学医学部 放射線科¹、岡山大学医学部 保健学科²、岡山大学医学部 病理部³、
岡山画像センター 画像診断科⁴

P-39 子宮PEComasの1例

木口 佳代¹、木戸 晶¹、江川 絢子²、鈴木 彩子²、南口早智子³、小西 郁生²、
富樫かおり¹

京都大学大学院医学研究科 画像診断学・核医学教室¹、
京都大学大学院医学研究科 婦人科産科学教室²、京都大学医学部附属病院 病理診断部³

P-40 子宮体部血管周囲類上皮細胞腫瘍の1例

東 浩樹、玉田 勉、伊東 克能

川崎医科大学 放射線科 画像診断

P-41 ポリープ状異型腺筋腫の4例: MRI所見の検討

北井 里実、尾上 薫、渡嘉敷唯司、五十嵐隆朗、松島 理士、川上 剛、
関谷 透、福田 国彦

東京慈恵会医科大学 放射線医学講座

P-42 嚢胞性子宮腺筋症を母地として発生した類内膜癌の1例

上原 朋子¹、高濱 潤子²、宮坂 俊輝¹、井上 正義¹、堀川 典子¹、中川 裕之¹、
吉川 公彦²、伊東 史学³、平野 仁嗣³、関川 進⁴

奈良県立奈良病院 放射線科¹、奈良県立医科大学 放射線科²、奈良県立奈良病院 産婦人科³、
奈良県立奈良病院 臨床検査部病理⁴

P-43 乳がん子宮転移の1例

松井 謙¹、吉田耕太郎¹、奥村健一郎¹、吉江 雄一¹、龍 泰治¹、南 哲弥¹、
川島 博子¹、蒲田 敏文¹、松井 修¹、水元 泰成²、井上 正樹²

金沢大学医学部 放射線科¹、金沢大学 産婦人科²

P-44 膣平滑筋腫瘤の2例

竹山 信之¹、崔 翔栄¹、林 高樹¹、横川 香²、横山 和彦²、斉藤 裕²、
田尻 琢磨³、岡部 尚行¹、黒木 一典¹、橋本 東児¹

昭和大学藤が丘病院 放射線科¹、昭和大学藤が丘病院 産婦人科²、昭和大学藤が丘病院 病理科³

P-45 無症状で経過した胆管内乳頭状腫瘍の1例

松成 一矢¹、藤澤 英文¹、谷坂 愛¹、殿内まどか¹、福原隆一郎¹、砂押 紀子¹、
櫛橋 民生¹、春日井 尚²、大池 信之³、国村 利明⁴
昭和大学横浜市北部病院 放射線科¹、昭和大学横浜市北部病院 消化器センター²、
昭和大学病院 第一病理学³、昭和大学横浜市北部病院 病理科⁴

P-46 偽胆石と考えられた7例

井本 勝治、井上 明星、板橋健太郎、山崎 道夫、坂本 力
公立甲賀病院 放射線科

P-47 脾外に発生したリンパ上皮嚢胞の1例

岡崎 肇¹、黒瀬 太一¹、門前 芳夫¹、水戸 未央²、和田崎晃一²
県立広島病院 放射線診断科¹、県立広島病院 放射線治療科²

P-48 Portal annular pancreasの1例

富田 浩子¹、新本 弘¹、曾我 茂義¹、川内 利夫¹、塩見 英佑¹、渡邊 定弘¹、
田村 千春¹、堀川 雅弘¹、山田謙太郎¹、加地 辰美¹、小須田 茂¹、前島 理²、
木村 暁史²、初瀬 一夫²、山本 順司²
防衛医科大学校病院 放射線科¹、防衛医科大学校病院 外科²

P-49 嚢胞化を来した脾神経内分泌腫瘍の1例

久能由記子¹、内田 政史¹、角 明子¹、有川 俊二¹、迫田 順²、鈴木 稔³、
安元真希子⁴、田口 順⁴、早瀬 尚文¹
久留米大学医学部 放射線医学教室¹、朝倉医師会病院 放射線科²、朝倉医師会病院 外科³、
久留米大学 病理学教室⁴

P-50 SPNと類似した若年発症の脾MCNの1例

茅橋 正憲¹、北尾 梓¹、南 哲弥¹、中村 功一¹、橋本奈々子¹、香田 渉¹、
蒲田 敏文¹、松井 修¹、北川 裕久²、太田 哲生²
金沢大学 経血管診療学¹、金沢大学 肝胆脾移植外科²

ポスターディスカッション8

座長 津田 孝治 (愛媛大学 生体画像応用医学)

P-51 臍動静脈奇形の1例

戸島 史仁¹、宮山 士朗¹、都司 和伸¹、橋本 成弘¹、柴田 義宏¹、吉田 未来¹、
山城 正司¹、寺田 卓郎²、石田 誠²、三井 毅²、須藤 嘉子³
福井県済生会病院 放射線科¹、福井県済生会病院 外科²、福井県済生会病院 病理科³

P-52 IgG4関連硬化性胆管炎に出現した胆管癌の1例;CTとMRIの経過を中心に

前田 新作¹、丸上 永晃²、穴井 洋¹、高濱 潤子¹、末吉 智¹、西尾福英之¹、
吉川 公彦¹、庄 雅之³、美登路 昭⁴、榎本 泰典⁵
奈良県立医科大学附属病院 放射線科¹、奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部²、
奈良県立医科大学 消化器外科³、奈良県立医科大学 消化器内科⁴、
奈良県立医科大学 病理診断学講座⁵

P-53 胆嚢石灰化を契機に発見された胆嚢癌肉腫の1例

金田 直樹¹、吉川 武¹、大野 良治¹、神田 知紀²、藤井 正彦¹、味木 徹夫³、
具 英成³、原 重雄⁴、伊藤 智雄⁴、杉村 和朗¹
神戸大学大学院医学研究科 内科系講座放射線医学分野¹、兵庫県立がんセンター 放射線診断科²、
神戸大学大学院医学研究科 外科学講座肝胆膵外科学分野³、
神戸大学大学院医学研究科 病理学講座病理診断学分野⁴

P-54 広範な門脈内進展を伴った膵腺房細胞癌の1例

井上 大¹、遠山 純¹、森永 郷子¹、阿保 齊¹、出町 洋¹、木田 明彦²、
松田耕一郎²、野田 八嗣²、内山 明史³、石澤 伸³
富山県立中央病院 放射線科¹、富山県立中央病院 消化器内科²、富山県立中央病院 病理科³

P-55 特異な進展を示した膵内分泌癌の1例

寺山 昇¹、上村 良一¹、小林 佳子¹、坊 早百合¹、藤田 真司¹、澤崎 邦廣²、
野手 雅幸²、薮下 和久²、月岡 雄治²、堀川 直樹²、小林 隆司²、高桑 健³、
清水 幸裕⁴、伊藤 博行⁴、七澤 洋⁴、芳尾 幸松⁴、大澤 幸治⁴、岡田 英吉⁵
高岡市民病院 放射線科¹、高岡市民病院 外科²、高岡市民病院 内科³、高岡市民病院 消化器内科⁴、
高岡市民病院 検査部⁵

P-56 膵腺扁平上皮癌の1例

水野まゆみ¹、伊藤 英人²、岡本 茂³、鍋谷 雅史²
独立行政法人 国立病院機構 埼玉病院 放射線科¹、新東京病院 外科²、新東京病院 病理科³

P-57 後腎性腺腫の1例

高橋 正洋¹、岡田 吉隆¹、西 直子¹、木村 文子¹、小山 政史²、上野 宗久²、
松嶋 惇³、清水 道生³

埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科¹、埼玉医科大学国際医療センター 泌尿器腫瘍科²、
埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科³

P-58 慢性間質性腎炎に見られた renal pseudotumorの1例

蒲地 紀之¹、笹栗 弘平¹、入江 裕之¹、柿木 寛明²、魚住 二郎²、岸 知哉³、
青木 茂久⁴、佐藤 勇司²、徳田 雄治²

佐賀大学医学部 放射線医学教室¹、佐賀大学医学部 泌尿器科²、佐賀大学医学部 腎臓内科³、
佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学分野⁴

P-59 腎のMTSCCの1例

加茂 実武¹、松尾 義朋²、小野田 結¹、森田 有香¹、野崎 太希¹、服部 一紀³、
村石 修³、鈴木 高祐⁴、齋田 幸久¹

聖路加国際病院 放射線科¹、イーサイトヘルスケア 放射線科²、聖路加国際病院 泌尿器科³、
聖路加国際病院 病理診断科⁴

P-60 腎洞内腫瘍の1例

吉田 理佳¹、楳 靖¹、水野 智弥²、深堀 能立²、釜井 隆男²、本間 浩一³

獨協医科大学 放射線医学講座¹、獨協医科大学 泌尿器科学講座²、獨協医科大学 形態病理学講座³

P-61 腎のlarge cell neuroendocrine carcinomaの1例

下総 良太^{1,2,3}、東出 高至¹、堀越 琢郎¹、井上 幸平¹、本折 健¹、太田 聡²、
坂本 信一³、宇野 隆¹、横田 元¹、金子和歌子¹

千葉大学医学部附属病院 放射線科¹、千葉大学医学部附属病院 病理部²、
千葉大学医学部附属病院 泌尿器科³

P-62 浸潤性発育を呈する腎腫瘍の鑑別

寺田 大晃、本田有紀子、中村 優子、谷 千尋、古本 大典、立神 史稔、
伊達 秀二、栗井 和夫

広島大学病院 放射線診断科

P-63 非典型像を呈した腎の混合上皮・間質腫瘍

本田有紀子、寺田 大晃、中村 優子、海地 陽子、石川 美保、古本 大典、
谷為 恵三、柿沢 秀明、伊達 秀司、栗井 和夫

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 放射線医学教室

P-64 原発性髄外精巣形質細胞腫

丸山 光也¹、石橋 恵美¹、荒木 和美¹、神山 俊和¹、安藤 慎司¹、勝部 敬¹、
山本 伸子¹、福庭 栄治¹、中村 恩¹、鶴崎 正勝¹、吉廻 毅¹、石川 典由²、
洲村 正裕³、井川 幹夫³、北垣 一¹

島根大学医学部 放射線科¹、島根大学医学部附属病院 病理部²、島根大学医学部附属病院 泌尿器科³

P-65 広範な膀胱、尿管病変として発症したATLの1例

沖野 巖¹、池内 高志²、松下 晴彦¹、堂下 信雄¹、久保田 晋¹

関西電力病院 放射線診断部¹、滋賀県立成人病センター 放射線科²

P-66 副腎神経節芽細胞腫の1例

中尾 聖、田辺 昌寛、上田 高顕、小野田秀子、藤田 岳史、松永 尚文

山口大学医学部附属病院 放射線科

P-67 後腹膜に発生した胎児型横紋筋肉腫の1例

宗近 次朗¹、後閑 武彦¹、竹山 信之²、橋本 東児²、外山 大輔³、磯山 恵一³、
中神 智和⁴、川野 晋也⁴、千葉 正博⁴、楯 玄秀⁵

昭和大学病院 放射線医学教室¹、昭和大学藤が丘病院 放射線科²、昭和大学藤が丘病院 小児科³、
昭和大学藤が丘病院 小児外科⁴、昭和大学藤が丘病院 病院病理科⁵

P-68 後腹膜に認められた粘液型軟骨肉腫の1例

上田 高顕、田辺 昌寛、中尾 聖、小野田秀子、原田 祐子、徳田 修、
松永 尚文

山口大学医学部 情報解析医学系学域 放射線医学分野

P-69 後腹膜腔原発のgerm cell tumorの1例

能勢 隼人¹、松崎 健司²、寺澤かおり¹、音見 暢一¹、岩本 誠司¹、高尾正一郎³、
竹内真由美²、大塚 秀樹⁴、原田 雅史¹

徳島大学病院医学部 放射線科¹、徳島大学 放射線部²、徳島大学 医用放射線技術分野³、
徳島大学 画像情報医学分野⁴

P-70 骨盤内Castleman病の1例

松浦 範明、山崎 航、大成 妙、松浦 明子、浦島 正喜

広島市立広島市民病院 放射線科

P-71 FDG-PETで集積亢進を示した後腹膜神経鞘腫の1例

黒川 浩典¹、藤島 護²、河原 道子²

三豊総合病院 放射線 診断 IVR 科¹、津山中央病院 放射線科²

クイズ展示 6月22日(金)

- Q-1** 近畿大学医学部附属病院 放射線医学教室放射線診断学部門¹、
近畿大学医学部附属病院 消化器内科学教室²、近畿大学医学部附属病院 病理学教室³
日高正二郎¹、兵頭 朋子¹、熊野 正士¹、岡田 真広¹、柳生 行伸¹、鎌田 研²、
北野 雅之²、筑後 孝章³、木村 雅友³、山田 穰¹、香川 祐毅¹、任 誠雲¹、
高橋 洋人¹、柏木 信夫¹、小塚 健倫¹、今岡いずみ¹、石井 一成¹、足利竜一郎¹、
工藤 正俊²、村上 卓道¹
- Q-2** 神戸大学医学部 放射線医学分野¹、神戸百年記念病院 放射線科²、神戸百年記念病院 病理部³
前田 哲雄^{1,2}、北島 一宏¹、窪田 彬³、吉川 武¹
- Q-3** 関東中央病院 放射線科
島 英樹、楨野 陽介、服部 英行
- Q-4** 岐阜大学医学部 附属病院 放射線科
五島 聡、川田 紘資、近藤 浩史、兼松 雅之
- Q-5** 島根大学医学部附属病院 放射線科¹、国立がん研究センター 肝胆膵外科²、
国立がん研究センター 病理部³、神戸大学大学院医学系研究科 放射線医学分野⁴
鶴崎 正勝¹、祖父江慶太郎⁴、稗田 洋子¹、丸山 光也¹、森 博史¹、北垣 一¹、
江崎 稔²、尾島 英知³、杉村 和朗⁴
- Q-6** 大阪大学大学院医学系研究科 放射線統合医学講座放射線医学講座
大西 裕満、金 東石、堀 雅敏、巽 光朗、中本 篤、坪山 尚寛、
坂根 誠、富山 憲幸
- Q-7** 大阪医科大学 放射線科
松木 充、稲田 悠紀、中井 豪、伊藤 康志、東山 央、山本 聖人、鳴海 善文
- Q-8** 島根大学医学部附属病院 放射線科¹、松江生協病院 放射線科²、松江生協病院 外科³
鶴崎 正勝¹、中村 友則²、稗田 洋子¹、丸山 光也¹、荒木 和美¹、深澤 優子¹、
勝部 敬¹、北垣 一¹、内田 正昭³
- Q-9** 手稲溪仁会病院 放射線科¹、手稲溪仁会病院 消化器内科²、手稲溪仁会病院 病理診断科³
児玉 芳尚¹、櫻井 康雄¹、立元 将太¹、小山内 学²、潟沼 朗生²、高橋 邦幸²、
真口 宏介²、篠原 敏也³
- Q-10** 近畿大学医学部 放射線診断科
岡田 真広、山田 利栄、山田 穰、村上 卓道